



此書物清身口漱洗手  
三度頂戴之而可閱之  
白地疊上直不可置以  
清器直以紙可敷之也



なり一や

観音大慈大悲大士菩薩

観音大慈大悲大士菩薩

とくくお

より六す六ふ

才一才一

才一才二才百もてい書のごとく者と函とを  
のうらにえくぐり百なるはけに

則吉函と次すはと。響音乃音に應

ずはくご。百發百中嗚呼無邊の

大慈大悲深哉。可崇玄妙不

可思儀庶幾籤と尚者異とわと

じと奇よ誇と莫ゆくの足

吉函と次すは者上乃五言四句乃



改<sup>め</sup>まうく明鑑<sup>めいけん</sup>とすべし下<sup>しも</sup>乃<sup>も</sup>注<sup>ちゆ</sup>  
ハ不定<sup>ふぢやう</sup>なり事<sup>こと</sup>ふ應<sup>おう</sup>どく取捨<sup>とりすて</sup>べ  
まかり

此<sup>この</sup>占<sup>うらなひ</sup>者<sup>は</sup>法華<sup>ほふけ</sup>普門<sup>ふもん</sup>品<sup>ひん</sup>三卷<sup>さんくわん</sup>讀誦<sup>どくど</sup>  
ト正觀<sup>しやうくわん</sup>音千手<sup>おんせんじゆ</sup>十一面<sup>じゆいちめん</sup>等<sup>とう</sup>乃<sup>も</sup>真<sup>まこと</sup>  
言<sup>げんごのく</sup>各<sup>ごのく</sup>三百三十三<sup>さんびやくさんじじゆ</sup>返<sup>げん</sup>禮拜<sup>らいはい</sup>三十

三度<sup>さんど</sup>一<sup>いち</sup>然後<sup>そしかつ</sup>可<sup>た</sup>取<sup>と</sup>者<sup>もの</sup>也<sup>なり</sup>尤<sup>なほ</sup>能<sup>よ</sup>其<sup>その</sup>  
身<sup>み</sup>と清淨<sup>しやうじやう</sup>め能<sup>よ</sup>其<sup>その</sup>身<sup>み</sup>と心<sup>こころ</sup>と  
一<sup>いち</sup>行<sup>ぎやう</sup>の誠<sup>まこと</sup>乃<sup>も</sup>意<sup>い</sup>とた<sup>た</sup>く疑<sup>うたがひ</sup>と  
こすゆき者<sup>もの</sup>あり

空<sup>くう</sup>に行<sup>ぎやう</sup>の正觀<sup>しやうくわん</sup>音千手<sup>おんせんじゆ</sup>十一面<sup>じゆいちめん</sup>  
等<sup>とう</sup>乃<sup>も</sup>意<sup>い</sup>とた<sup>た</sup>く疑<sup>うたがひ</sup>と  
こすゆき者<sup>もの</sup>あり





正觀自在王菩薩呪

字下

千手千眼大菩薩呪

字下

字下

十一面觀世音大士呪

字下

籤不合時

○甲乙日ハ

○丙丁日ハ

○戊己日ハ

○庚辛日ハ

○壬癸日ハ

巳午申酉の辰

寅卯亥子の辰

丑卯辰巳の辰

子丑巳午の辰

丑未辰戌の辰



願文 願文とは願ふ事なりと云ふ也  
 謹按經曰念念勿生疑觀世音淨  
 聖於苦惱死厄能為作依怙具一  
 切功德慈眼視衆生福聚海無量  
 是故應頂禮夫觀世音菩薩者娑  
 婆世界施無畏也利生越三世菩

誓願勝十方薩埵由之南瞻部洲  
 大日本國 其州其鄉其甲 今月今日  
 欲頌而以決其言嫌疑仍而一心  
 奉請觀音薩埵三十三身化現  
 等仰冀降臨道場與百頌之中  
 其一而吉則吉凶則凶決猶豫



才一大吉



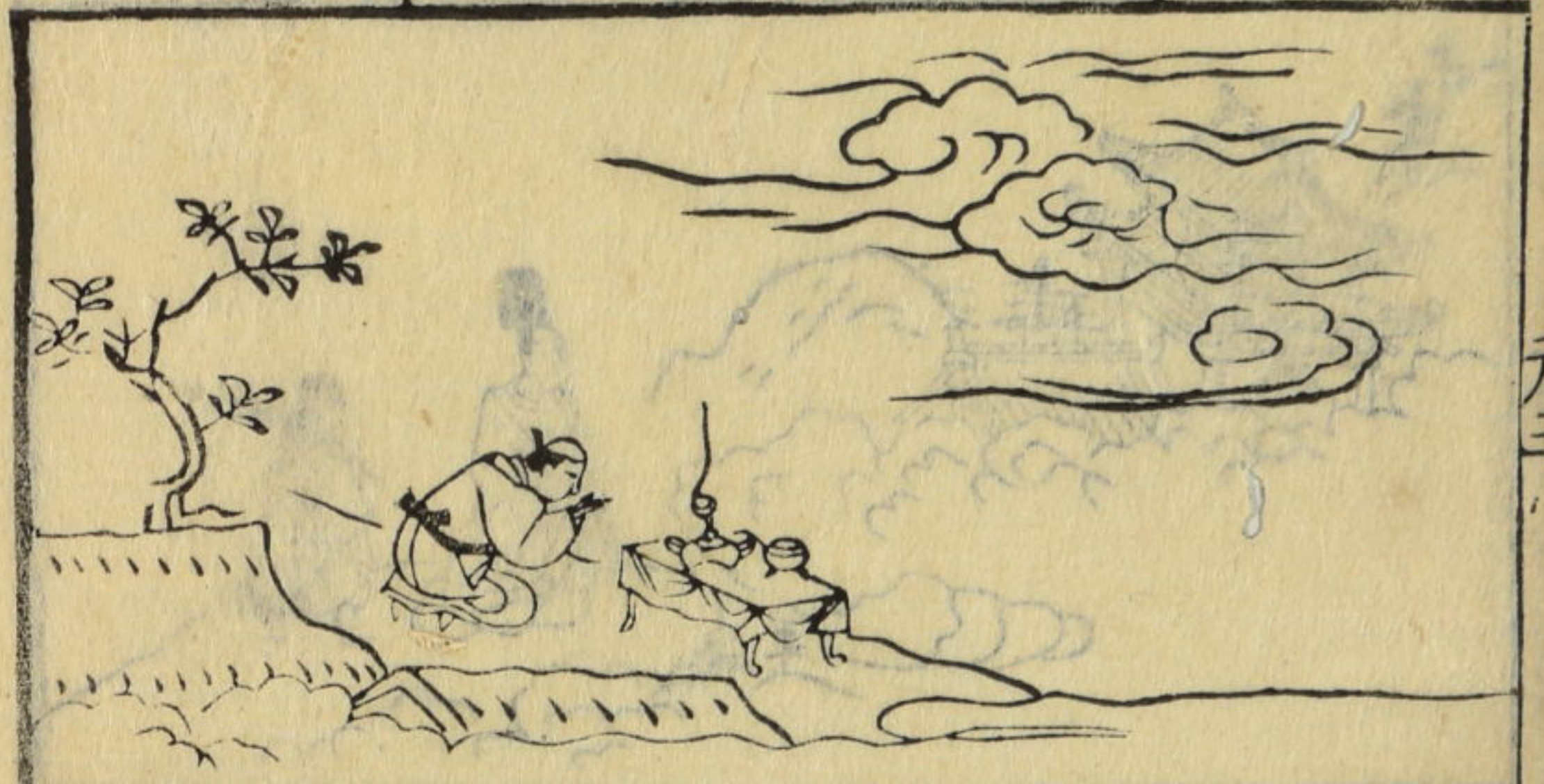
<p>莫作等閑看 あつれあそびごとくくんのえんと まどがら</p>	<p>衆人皆仰望 しゆじんみなけうごうま</p>	<p>高峯頂上安 かうやうてうじやにあんす</p>	<p>七寶浮圖塔 しちほうぶつのだう</p>
<p>凡人ハ其ノ如ク ひとハみなそのごとく あそびをばす大衆</p>	<p>衆人皆仰望 しゆじんみなけうごうま ぞ</p>	<p>高峯頂上安 かうやうてうじやにあんす たうたみ跡のうへま たらをいやくする とくろふぶ</p>	<p>七寶浮圖塔 しちほうぶつのだう うづのだうとい 七ほうのだう</p>

垂證明  
 奉送文  
 一心奉送上所請觀世音菩薩三  
 十三身化現等各還歸本座向後  
 奉請不捨慈悲降臨影向道場

一ののこころごとくおぼえをばす大衆と云ふは  
 又くごころけとみだにおもふあのみたらく名  
 とぞりいりんとまみあうしやうのふりごとく  
 衆人皆仰望と云ふは



才二小石



月被淨雲翳

月とあはれもくも  
よかされていこぞ

卒事自昏迷

あてがふことなき  
ちかひとくえのけ  
まのくらねまよ

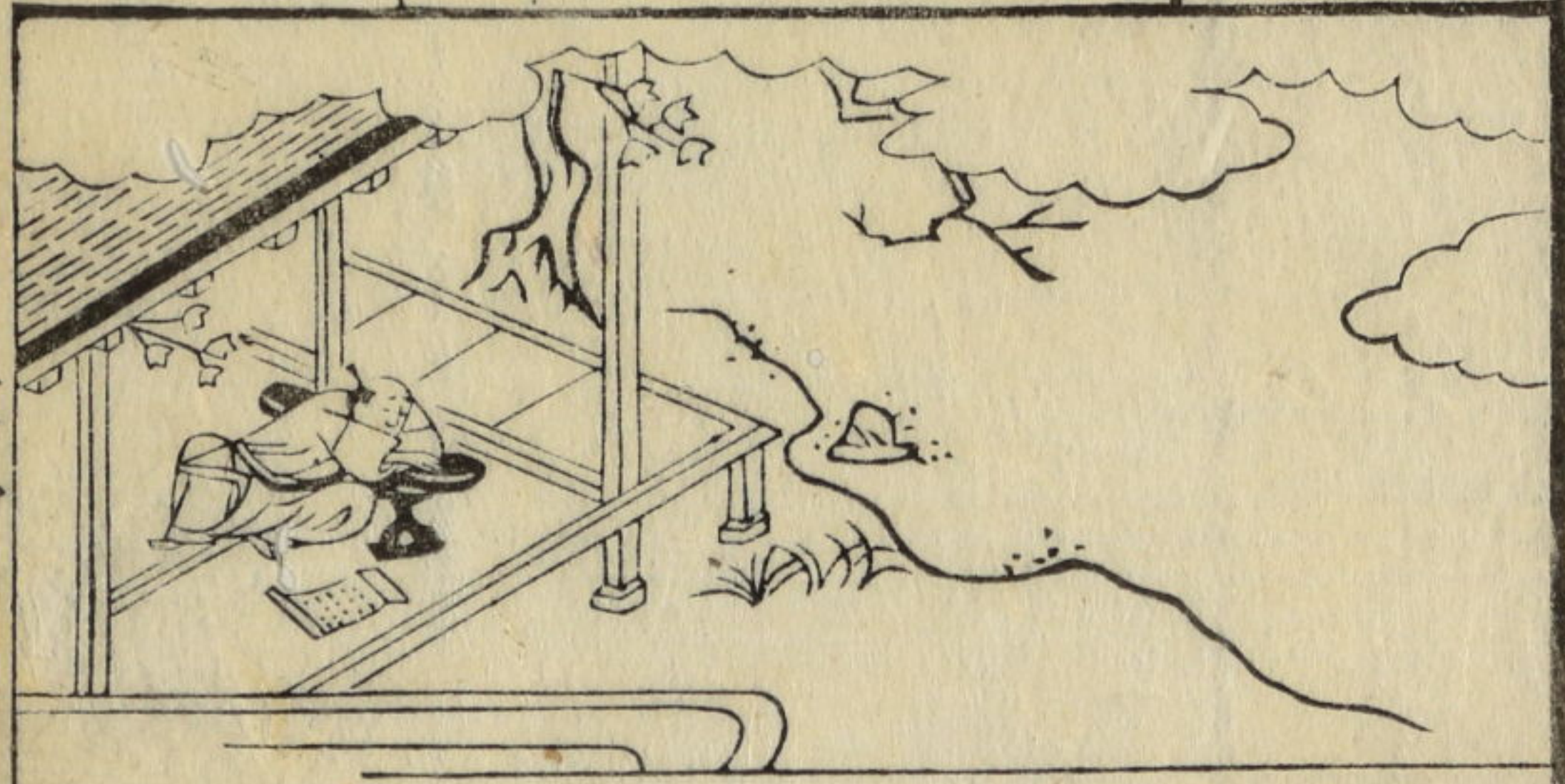
幸乞陰合祐

あはれとけりて  
あはれとけりて  
あはれとけりて

何慮不開眉

あはれとけりて  
あはれとけりて  
あはれとけりて

才三石



愁惱損忠良

あはれとけりて  
あはれとけりて  
あはれとけりて

青膏一炷香

あはれとけりて  
あはれとけりて  
あはれとけりて

雖然防小過

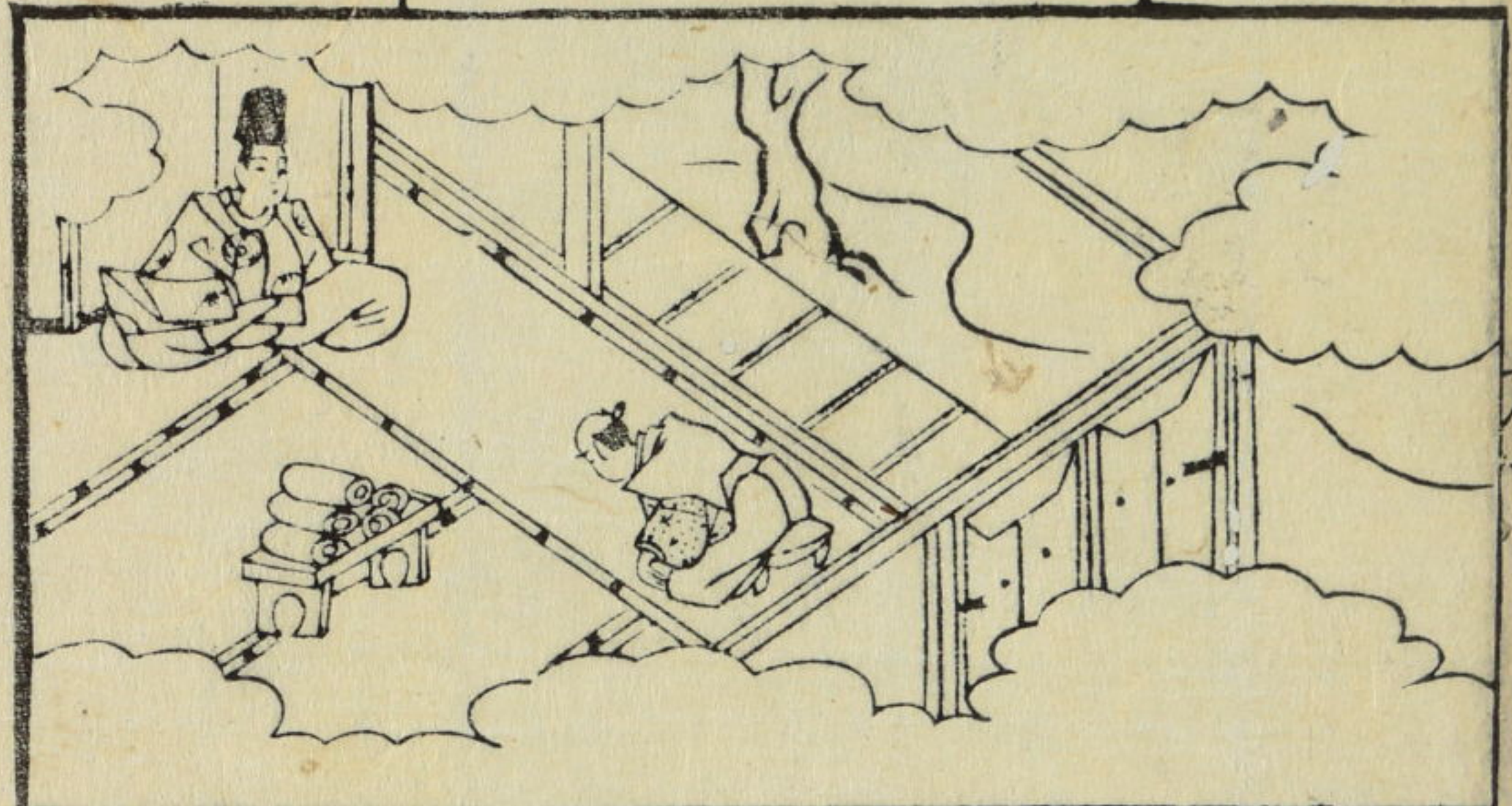
あはれとけりて  
あはれとけりて  
あはれとけりて

閑慮學時長

あはれとけりて  
あはれとけりて  
あはれとけりて



才四存



累有興雲志

累有興雲志  
かきつたりのうらみのうらみ

敬恩祿未封

敬恩祿未封  
おんをうらむるまじき

若逢侯手印

若逢侯手印  
わがにやうのてのうらみ

好事始念念

好事始念念  
いよくおもしろき

才五函



家道未能昌

家道未能昌  
いかにいかにいかに

危危保禍殃

危危保禍殃  
いかにいかにいかに

暗雲侵月桂

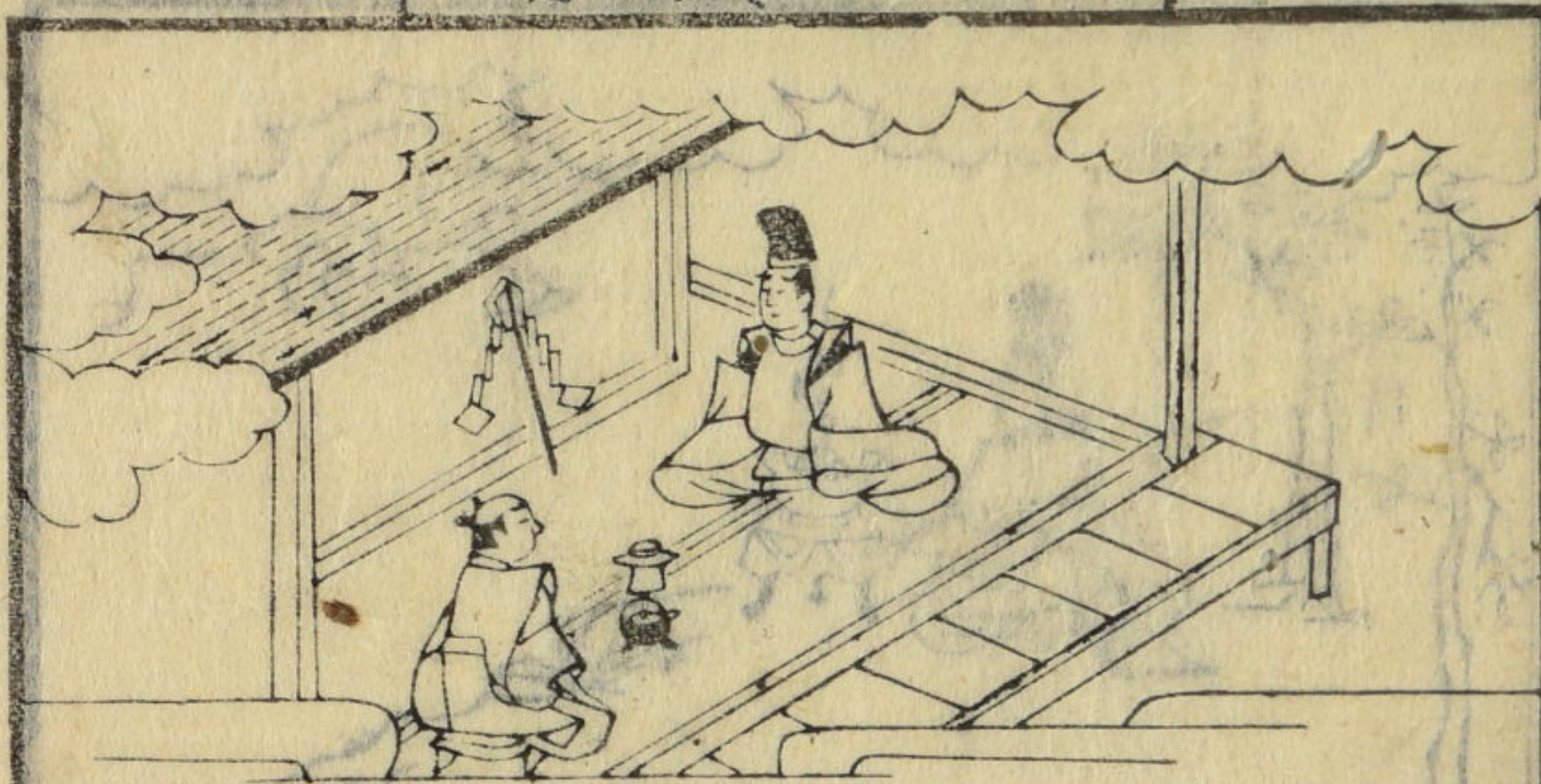
暗雲侵月桂  
いかにいかにいかに

佳人一炷香

佳人一炷香  
いかにいかにいかに



才六之



宅基鬼凶多

家内不浄し  
しんがく

人事有文訛

あまごころを  
まふ人があらず

傷賊損失防

さへわうあつと  
まひても又いぞ

祈福始中和

天にまごりさひ  
とつくはれとん

才七之



登舟待便風

舟にまごりされ  
おんやうがまを

月色暗朦朧

とれゆく月を  
つら

欲碾香輪去

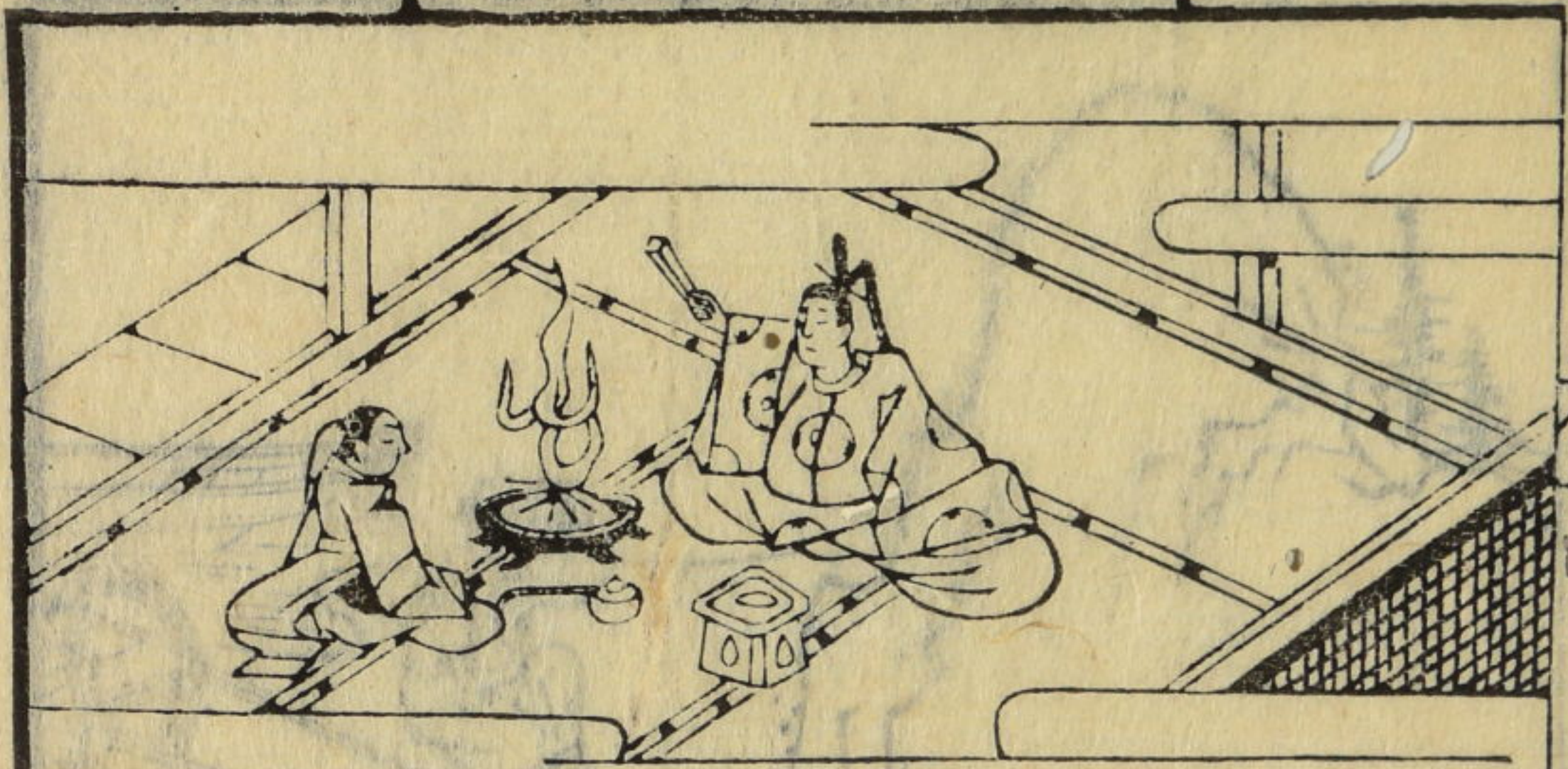
ふかまにのりて  
ゆんくすれを

高山千万里

山たみしてあひ  
る海をあらぬ



才八大存



勿頭中尾見

と上より下に見  
まがらうとさう  
まことよみあり

文華須得理

ふつと文のよし  
まあつことあべ  
ささり

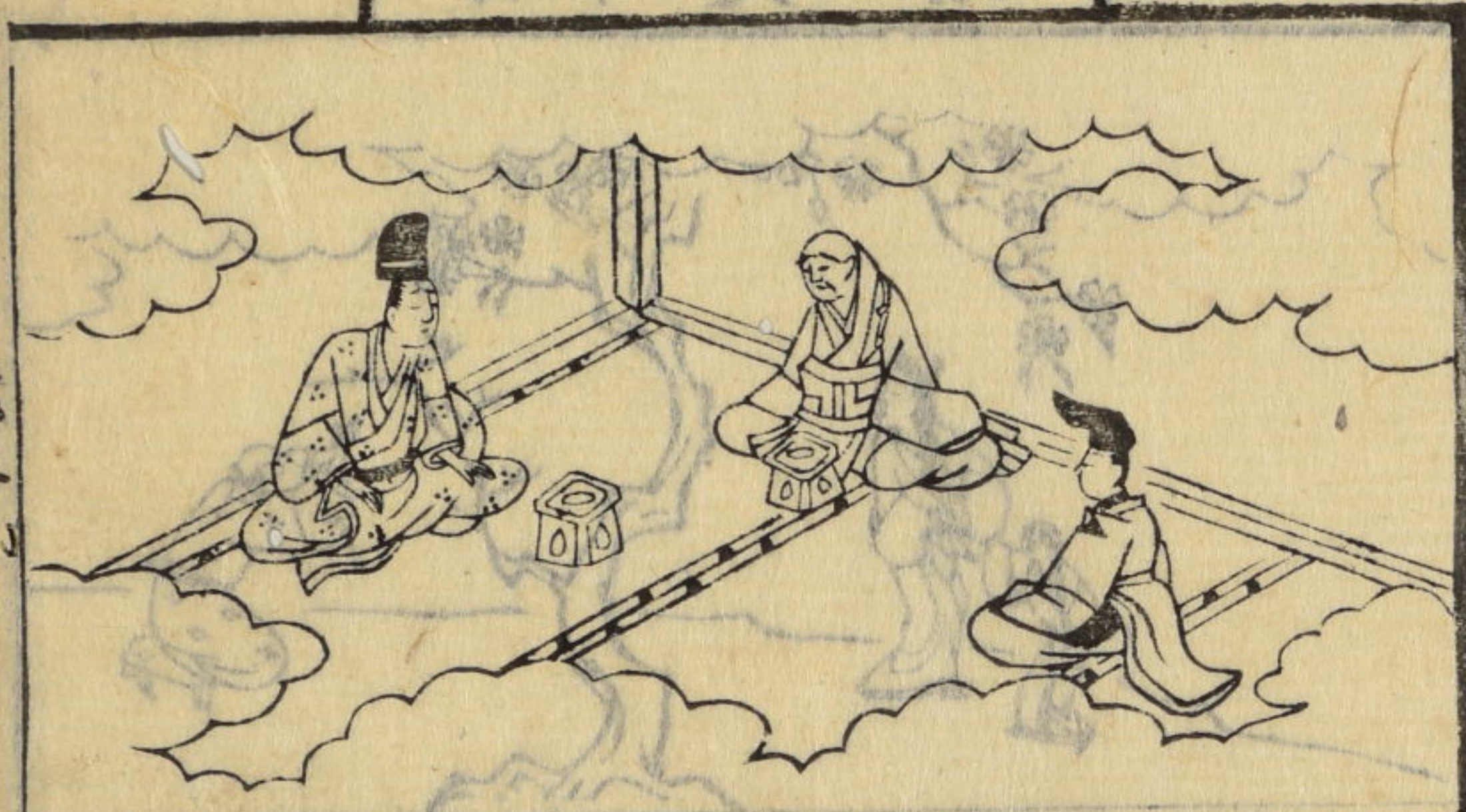
禾刀自偶然

ちちら田ふいぢぢく  
あての縁とるかこ  
らまてド縁んは  
あつてさぞ

當遇非常喜

いそわとあわて  
しちびとあふ  
べささり

才九大存



有名須得遇

みずあけいふよあ  
らねんとあわりぐ  
のそとれまうぞ

三望一期遷

とハニゼともはあ  
おとひのまうぞ

貴人來指處

のこしんあきんかうん  
のまらんうそまうぞ  
まけべさぞ

華菓應時鮮

あつたんあきんこ  
のましとまうぞ  
よわめあらま



吉 大 一 十 才



兼得貴人扶

あひて貴人  
ととに人のたすけと  
あらぶよしぞ

雲中衆好箭

うんちゅうに  
でうすうやう  
のす  
あしはらう  
一すどまを  
ととにあらうぞ

文華達帝都

ぶんわに  
たつと  
まをその  
そ

有祿興家業

うろく  
たつた  
まが  
そ

吉 大 十 才



舊用多成破

ふる  
あつた  
ふれて  
る

新更始見賊

あつた  
あつた  
まんす  
し

政求雲外望

まを  
あつた  
どう  
も

枯木遇春開

これ  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた



吉大二十才



楊柳遇春時

わがれを春のあけ  
てみどりともぞり  
ぞ

殘華發舊枝

本ころこぞも花  
さたをみめてはあて  
たとりさひのあてに  
だとりさひのあてに

重重霜雪裡

あもゆたをさりか  
らに色

黄金色更輝

まろざんはつらとん  
せんくやくぞ

吉大三十才



手把太陽輝

まろざんはつらとん  
せんくやくぞ

東君發舊枝

まろざんはつらとん  
せんくやくぞ

稼苗方欲秀

まろざんはつらとん  
せんくやくぞ

猶更上雲梯

まろざんはつらとん  
せんくやくぞ



吉末四十才



石玉未分時

憂心轉更迷

前途通大道

華發應殘枝

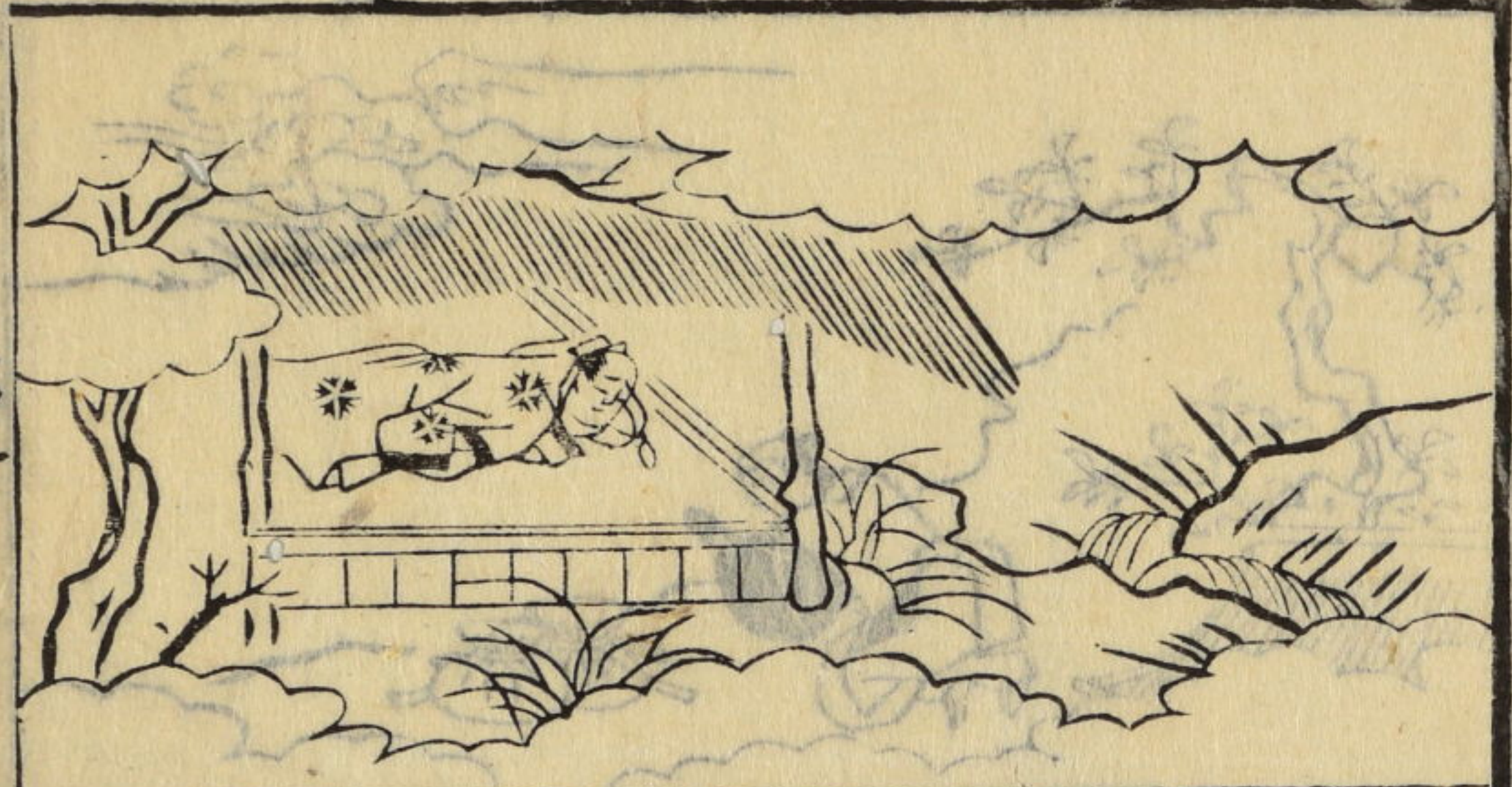
たまごのたまごはあ  
まごしごれがたまご  
まが石といふまごころ  
にぞぞ

けたまよとけりし  
おのれとらたにぞ  
くーぞ

ど福んせん福ん  
よくがのよりあふ  
が

大小をれくよあ  
どくもかこした  
まごのぼろ

凶五十才



年来數亦孤

久病未能癒

岸危舟未登

龍臥失明珠

ふすあつんまひら  
おあつておすこ  
いぞ

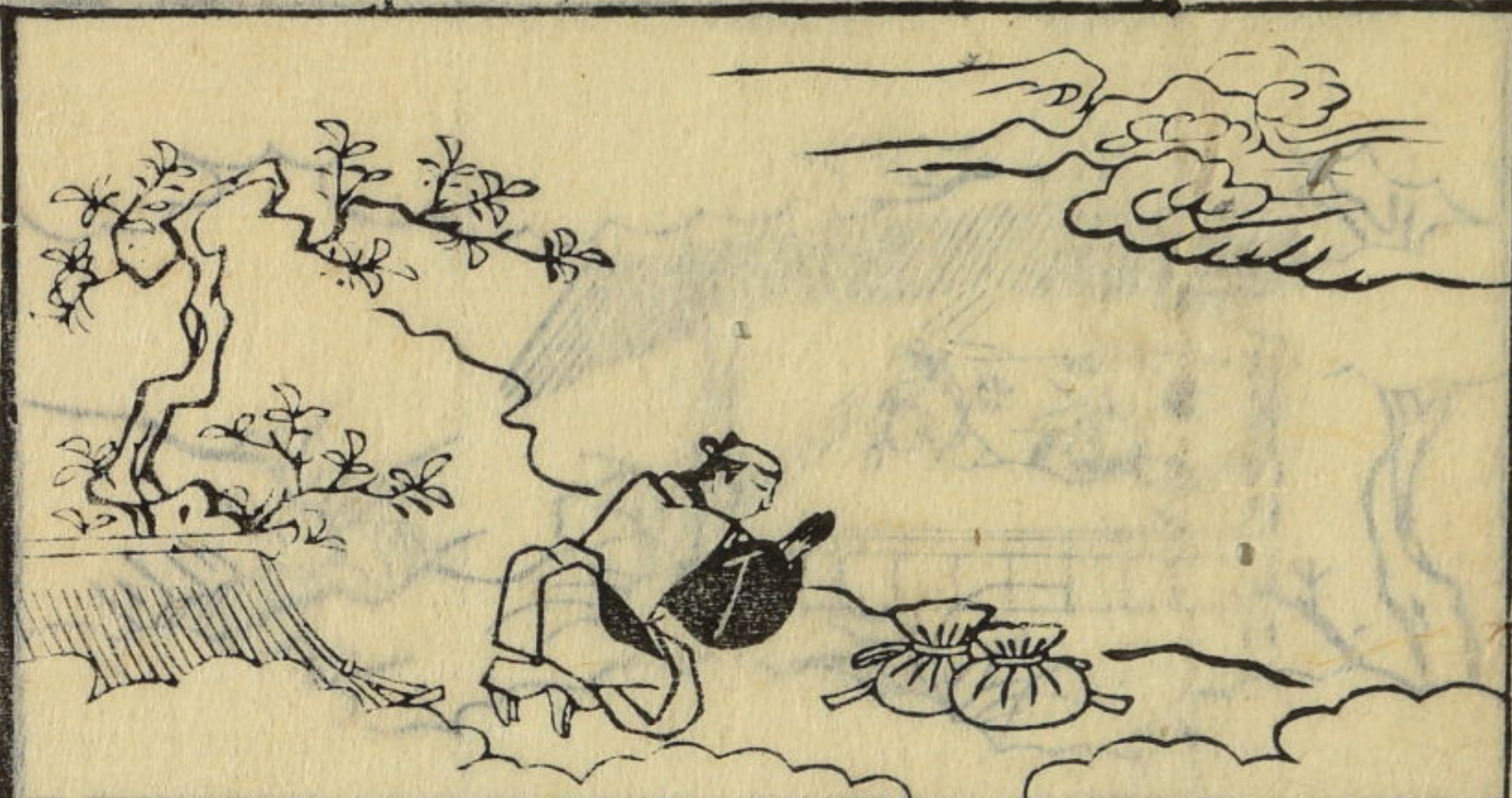
やまひもく  
あてふあふあし  
かひぞ

あねをほくご  
ましにまわが  
いぞ

あつんえんようあ  
おくくを河と  
いぞ



吉六十才



欲政重成望

まらりごととて  
せんえんどうと  
と思ふも

前途喜亦寧

せんとうと  
しんとうと  
ぞ

貴人相助處

まへんのた  
あて

禄馬照前程

まらりごとと  
せんえんどうと  
おのれ

凶七十才



恠異防憂惱

おのれ  
すうた  
やいぞ

人宅見分離

しんたく  
まらりごとと  
おのれ

惜奉還値兩

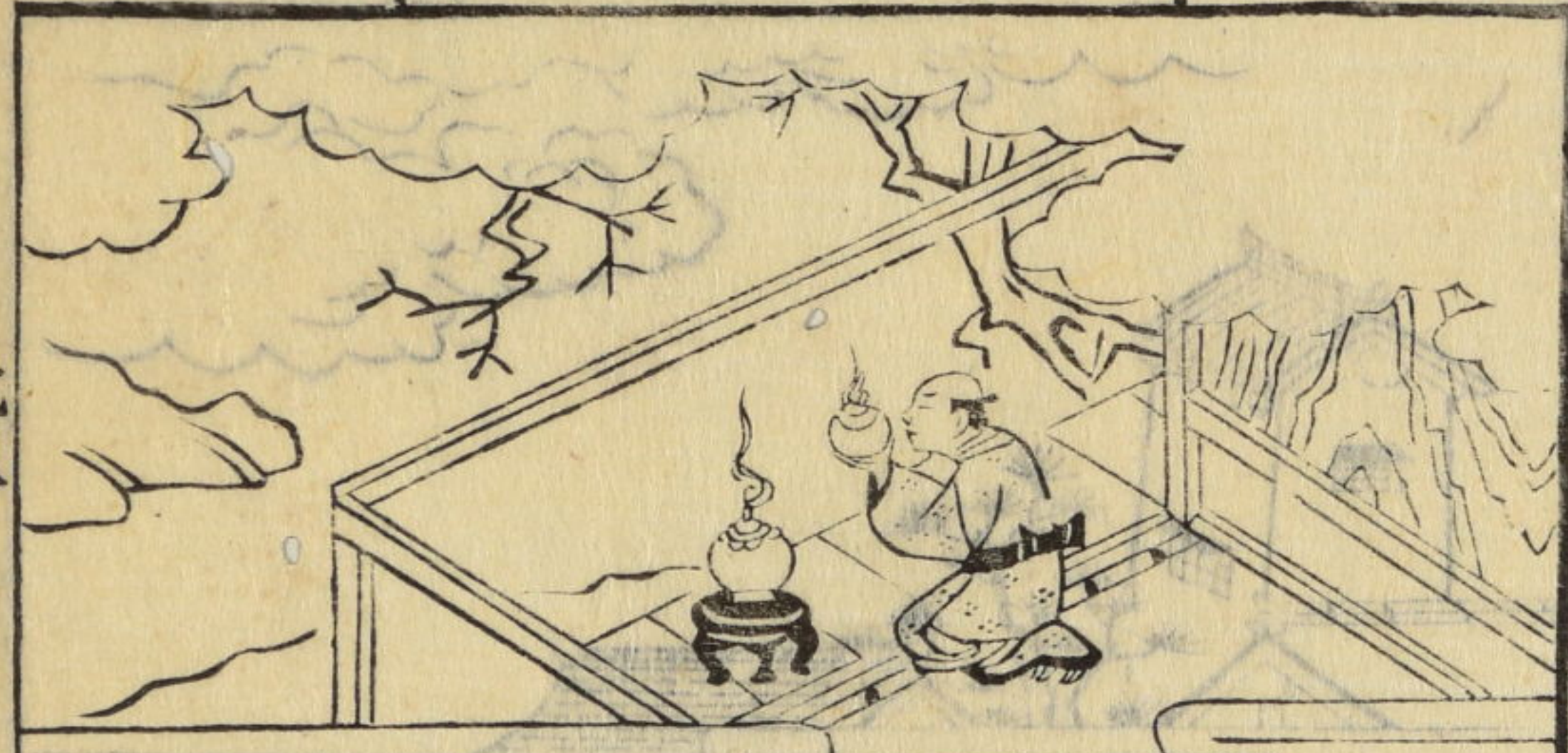
おのれ  
せんえんどうと  
おのれ

杯酒惹閑非

おのれ  
せんえんどうと  
おのれ



吉小末九十身



家道生荆棗

けいさくはくふをばいばい  
くさばいばいばいばい  
よらよらこれをもす  
そたうけぞ

兒孫防虎威

こらん威様とりめ  
ふすうぬいよせ  
げごふのめぞ

香前祈福厚

かきあきとよいて天  
乃ととらむつあ  
ず

方得免分離

あきとくよとて  
あつとよいあつと  
かんれまいた

吉八十身



離暗出明時

あつとそらとんれ  
て月のづつとく  
あり

麻衣變綠衣

あまのちいへんド  
うすめあつと  
かろまらんあつと

舊夏終是退

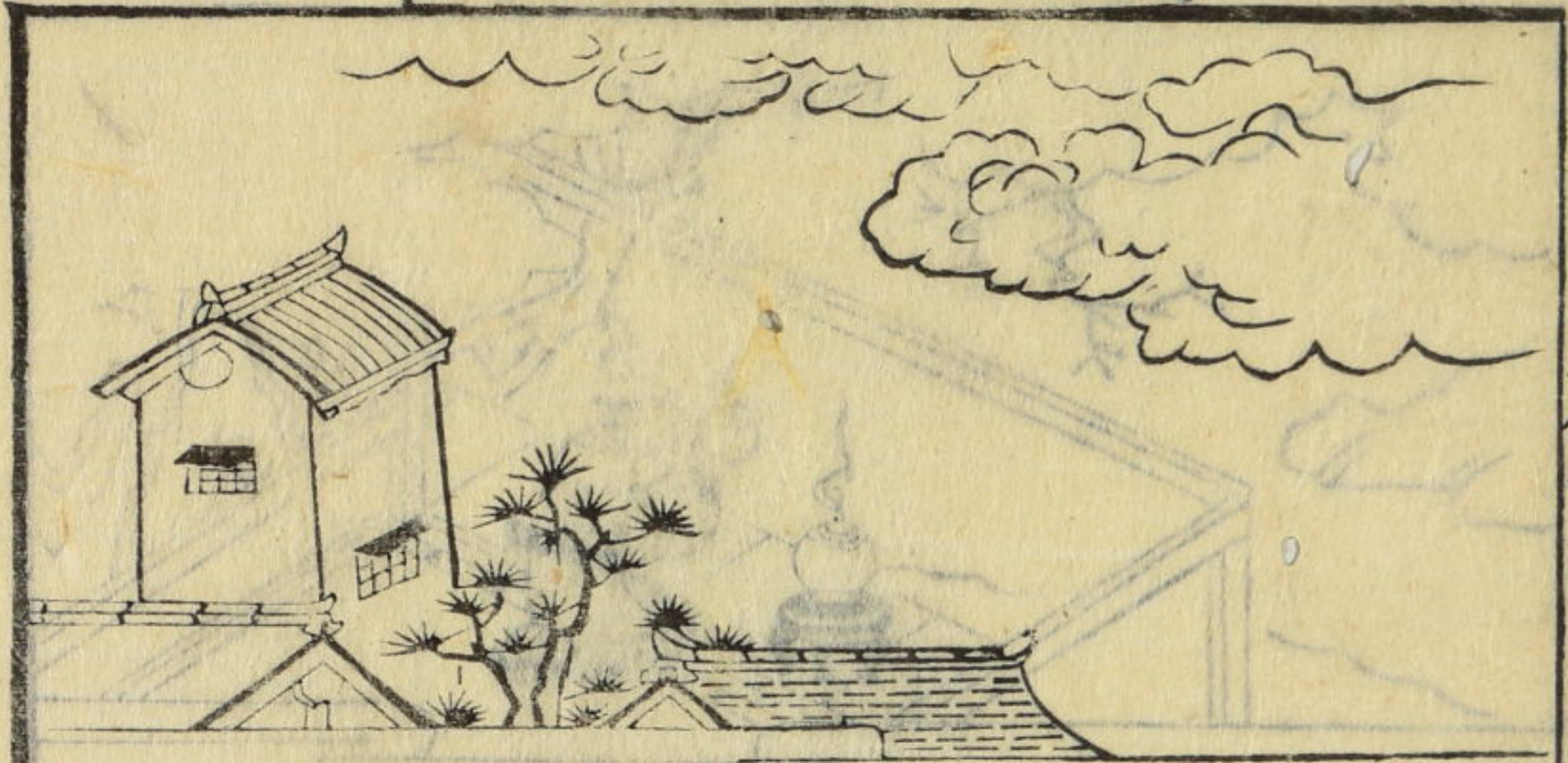
ひさしとまうま  
あつとくはあつと  
いこぞ

遇祿應交糧

あつとくまうま  
あつとくはあつと  
べーとあつと



吉 十二才



日出漸分明

いそぎやくらきさう  
いそぎやくらきさう  
いそぎやくらきさう

家財毎毎興

かざりあつて  
かざりあつて  
かざりあつて

何言先有満

なんぞいんちあつた  
なんぞいんちあつた  
なんぞいんちあつた

更變立功名

さらばんせい  
さらばんせい  
さらばんせい

吉 一十二才



洗出経年否

わらいだいで  
わらいだいで  
わらいだいで

光華得再清

あかりくわ  
あかりくわ  
あかりくわ

所求終吉利

ところとつひ  
ところとつひ  
ところとつひ

重日照前程

もうどつて  
もうどつて  
もうどつて



吉二十二才



漸漸濃雲散

あんなくそでぞうんさんか  
あまて

看看月再明

のきまひ  
あまてふいあきら  
かたこし一たふ  
くすあひを

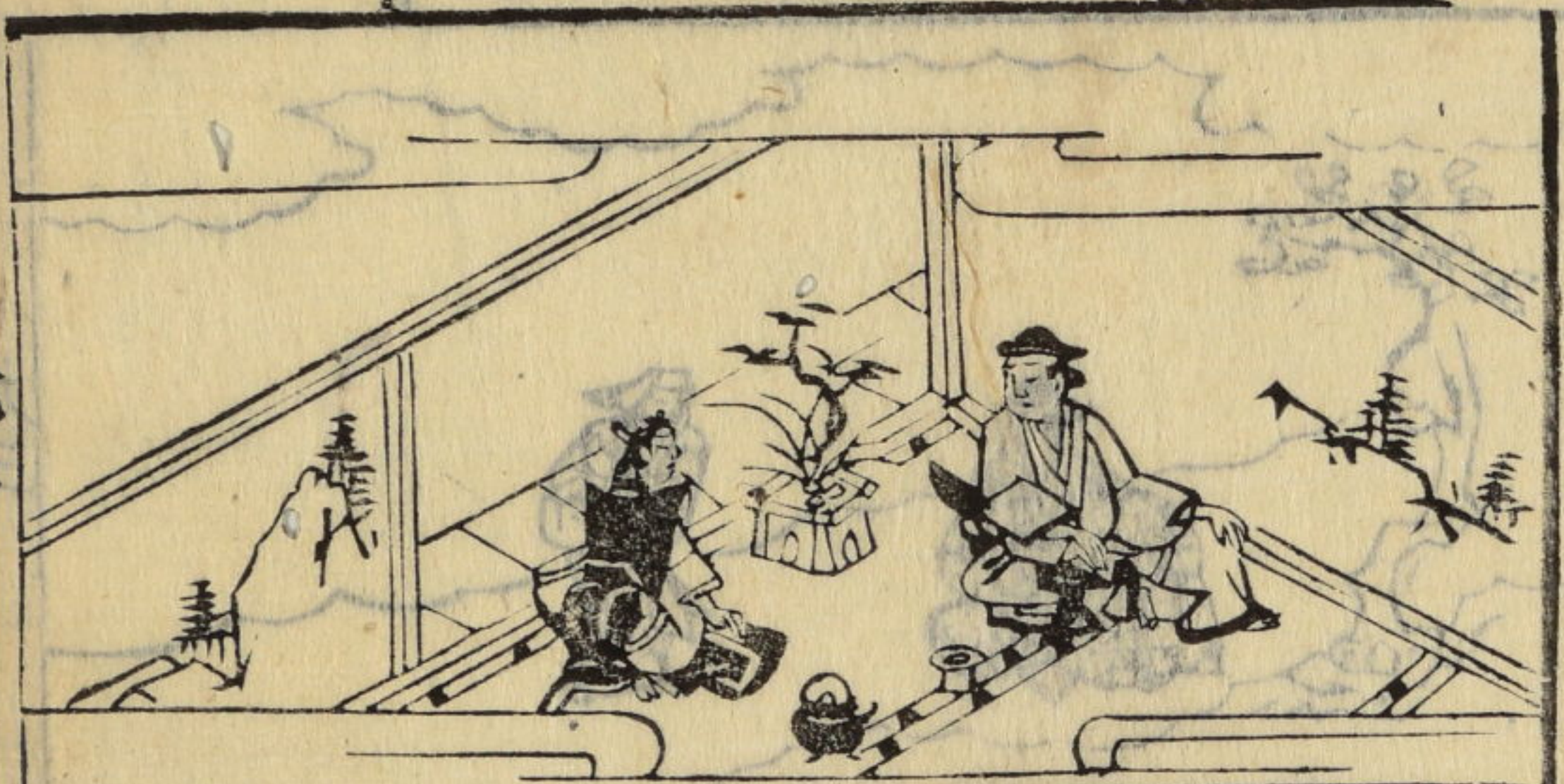
逢春華菓秀

あふらんたをくらと  
あまてふいあきら  
ひらけりあまて  
あまてふいあきら

雨過竹重青

あめつらふけりあまて  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら

吉三十二才



紅雲隨步起

あまてふいあきら  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら

一箭中青霄

あまてふいあきら  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら

鹿行千里遠

あまてふいあきら  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら

幸知去路遥

あまてふいあきら  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら  
あまてふいあきら



酉 四十二才



三女莫相逢

三女乃字一海  
一三乃理之  
けありそけしとこ

盟言説未通

あやうく言はれ  
つはくしてい  
つせぬぞ

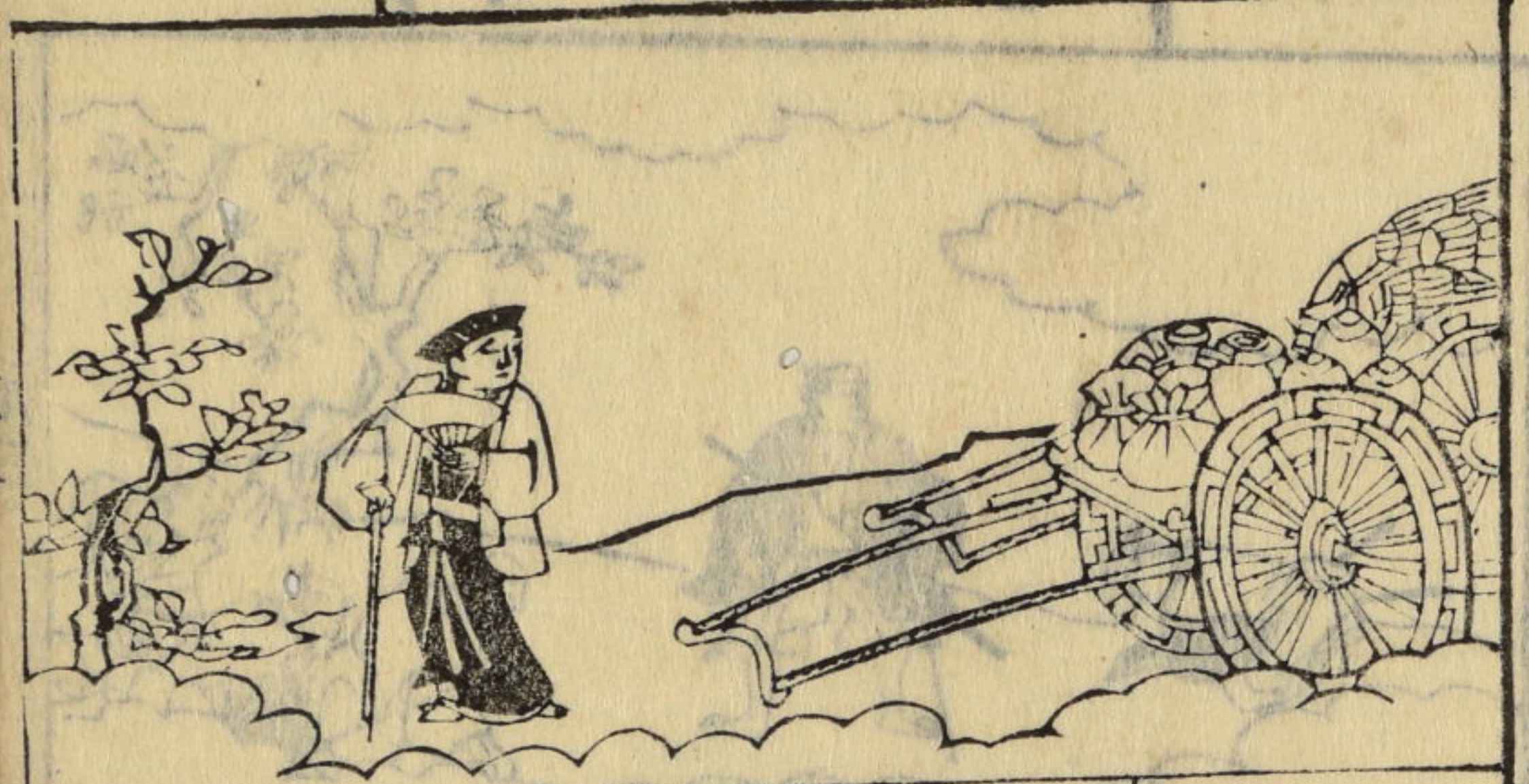
門裏心肝掛

とらぬらうも  
心は身にも  
らぬぞ

縞素子重重

しろ素子とよ  
まへよ

吉 五十二才



枯木遇春生

さうりくえんは  
てしやうれん  
えまげくさうゆ

前途必利亨

事ハと内  
色の字は  
すゑまをど

亦得佳人箭

とらたおめ  
とけ

乘車禄自行

ふいりう  
はひへ



吉六十二才



將軍有異聲

とちおとよおの  
いせのちかおの  
ちかおのいせ

進兵萬里程

ひとくうおの  
ぐんのまゝ

爭知臨敵處

まゝいびく  
まうんとえ

道勝却虛名

あまうおとけり  
りうあうたか  
みりて

吉七十二才



望祿應重山

福祿ハ山と  
いかに  
んがわ

花紅喜悅顔

さかき  
よのて

舉頭看皎月

月とらん  
くの月を  
からめ

漸出黑雲間

あまう  
かり



酉 八十二才



意速無船渡

あつたにきげきも  
あひがもこらぬ

波深必誤身

あつたにきげきも  
あひがもこらぬ

切須回舊路

あつたにきげきも  
あひがもこらぬ

方可逸災巡

あつたにきげきも  
あひがもこらぬ

吉 九十二才



憂轉漸消融

あつたにきげきも  
あひがもこらぬ

求名得再通

あつたにきげきも  
あひがもこらぬ

寶財歸祿位

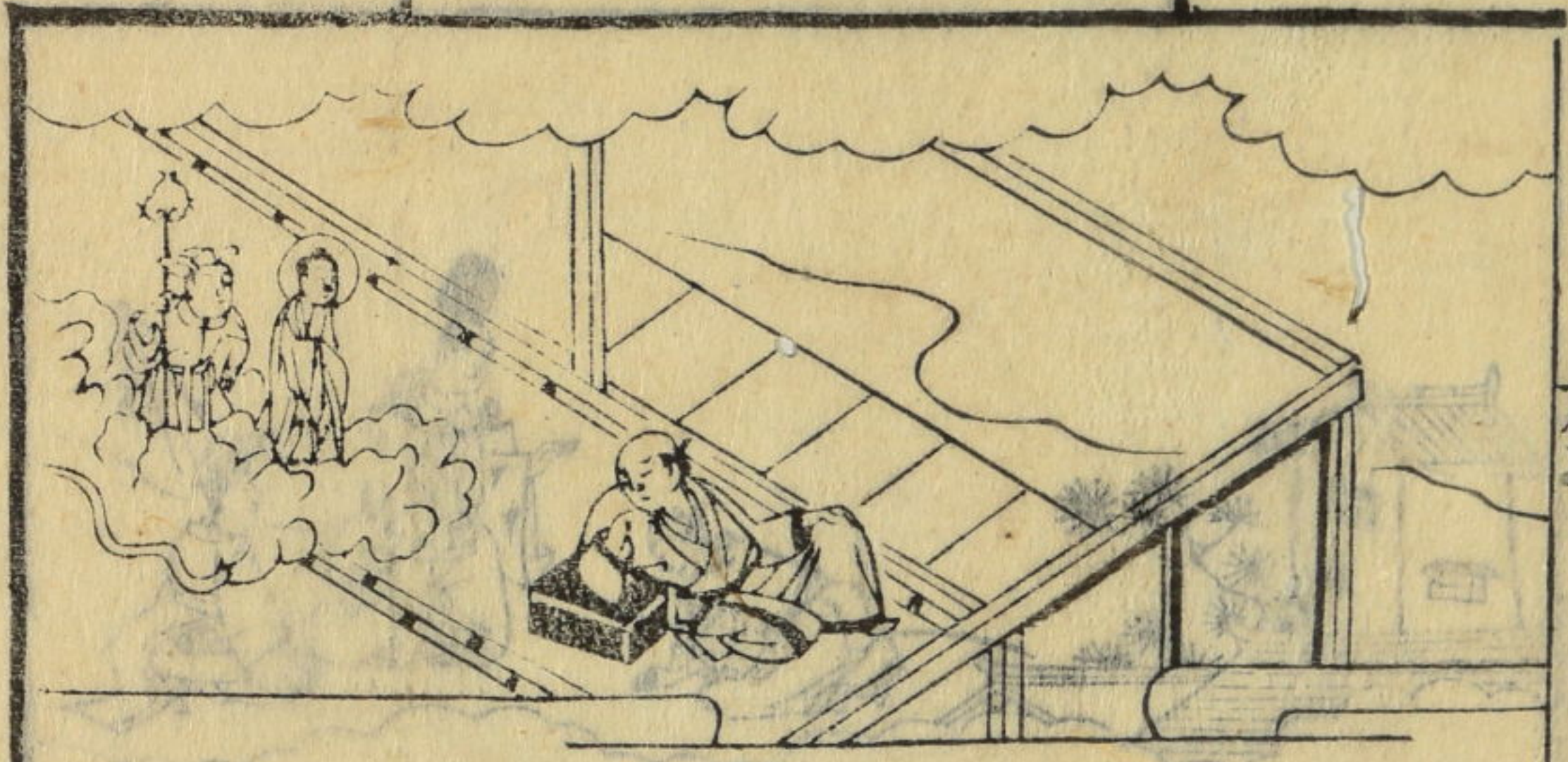
あつたにきげきも  
あひがもこらぬ

當遇主人公

あつたにきげきも  
あひがもこらぬ



才十三半言



仙鶴立高枝

せんかくつたあかき  
あまのつたあかき

防地暗箭虧

やまのくろやまのくろ  
やまのくろやまのくろ  
どろあかき

井畔剛刀利

いわたつらうらうら  
やまのくろやまのくろ  
どろあかき

戸内更防危

あまのくろやまのくろ  
あまのくろやまのくろ  
あまのくろやまのくろ

才三十一末吉



鯢鯨末變時

えんげいのへんげ  
えんげいのへんげ  
えんげいのへんげ

且守碧潭淡

あまのくろやまのくろ  
あまのくろやまのくろ  
あまのくろやまのくろ

風雲興巨浪

あまのくろやまのくろ  
あまのくろやまのくろ  
あまのくろやまのくろ

十息過天地

あまのくろやまのくろ  
あまのくろやまのくろ  
あまのくろやまのくろ



吉二十三才



似玉藏深石

中りたまからにあらまふ  
たまご石の下に  
くしてあるぞ

休將故眼看

ちかめさうもを  
あまういぢ

一朝良匠別

あにさぬくみ  
ふられぬでい  
むらんまけまひぢ

方見寶光寒

天祐んたまれひり  
ハわくはまふぢ

吉三十三才



枯木逢春艷

こがくもまはれ  
こふくみぢりと長  
ずる

芳菲再發林

しめはを天地よ  
みらくとぞ

雲間方見月

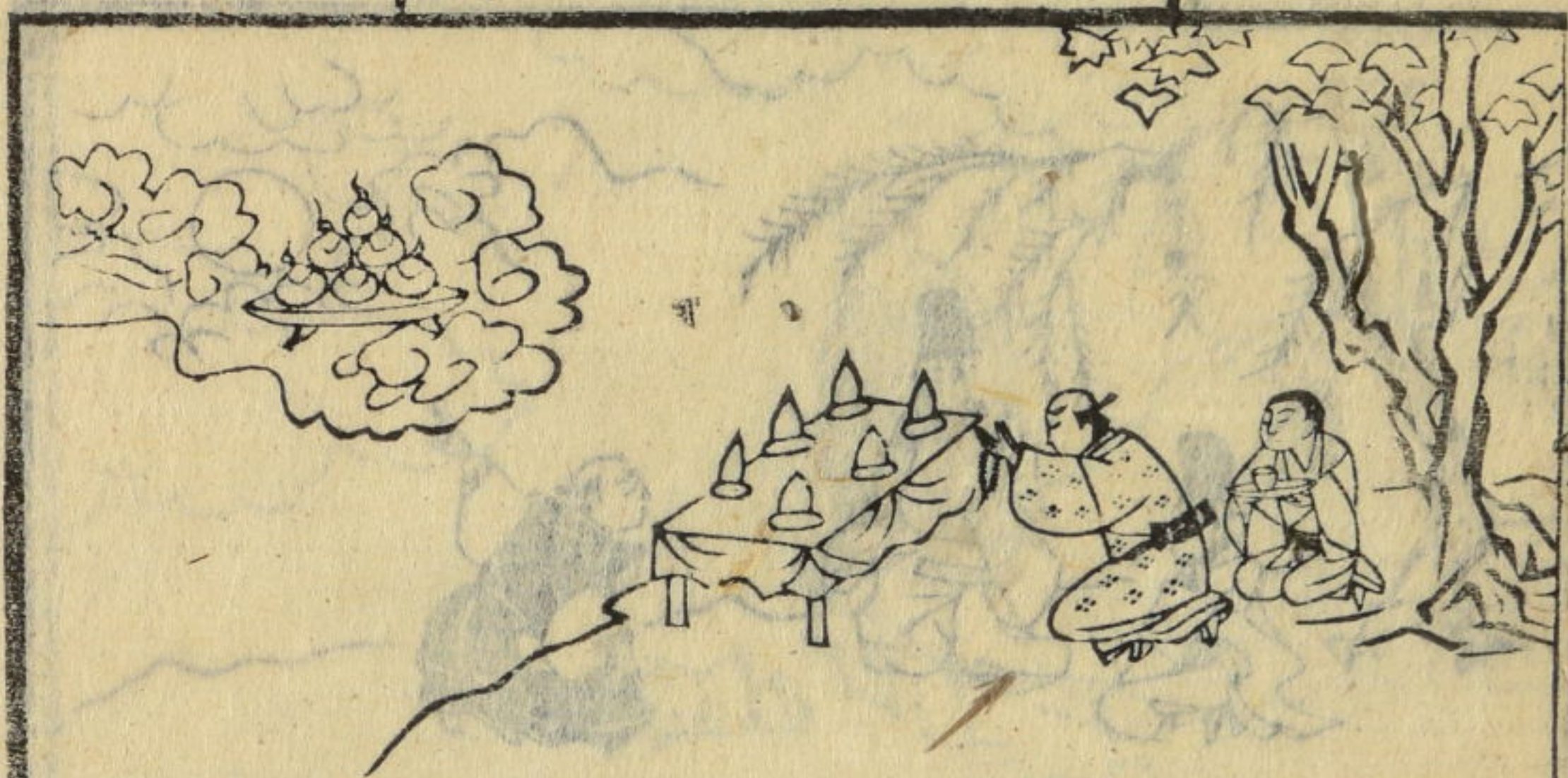
月とくをれなれ  
ちたつとぞ

前遇貴人欽

まにんのまらび  
とあうぞ



吉四十三才



臘木春將至

一二乃旬月より

芳菲喜再新

芳菲と

鯨鯨興巨浪

とあけうすそ

舉釣祿爲眞

あるぞ

吉五十三才



賊鹿須乘箭

さういひは

胡僧引路歸

とあべ

遇道同仙籍

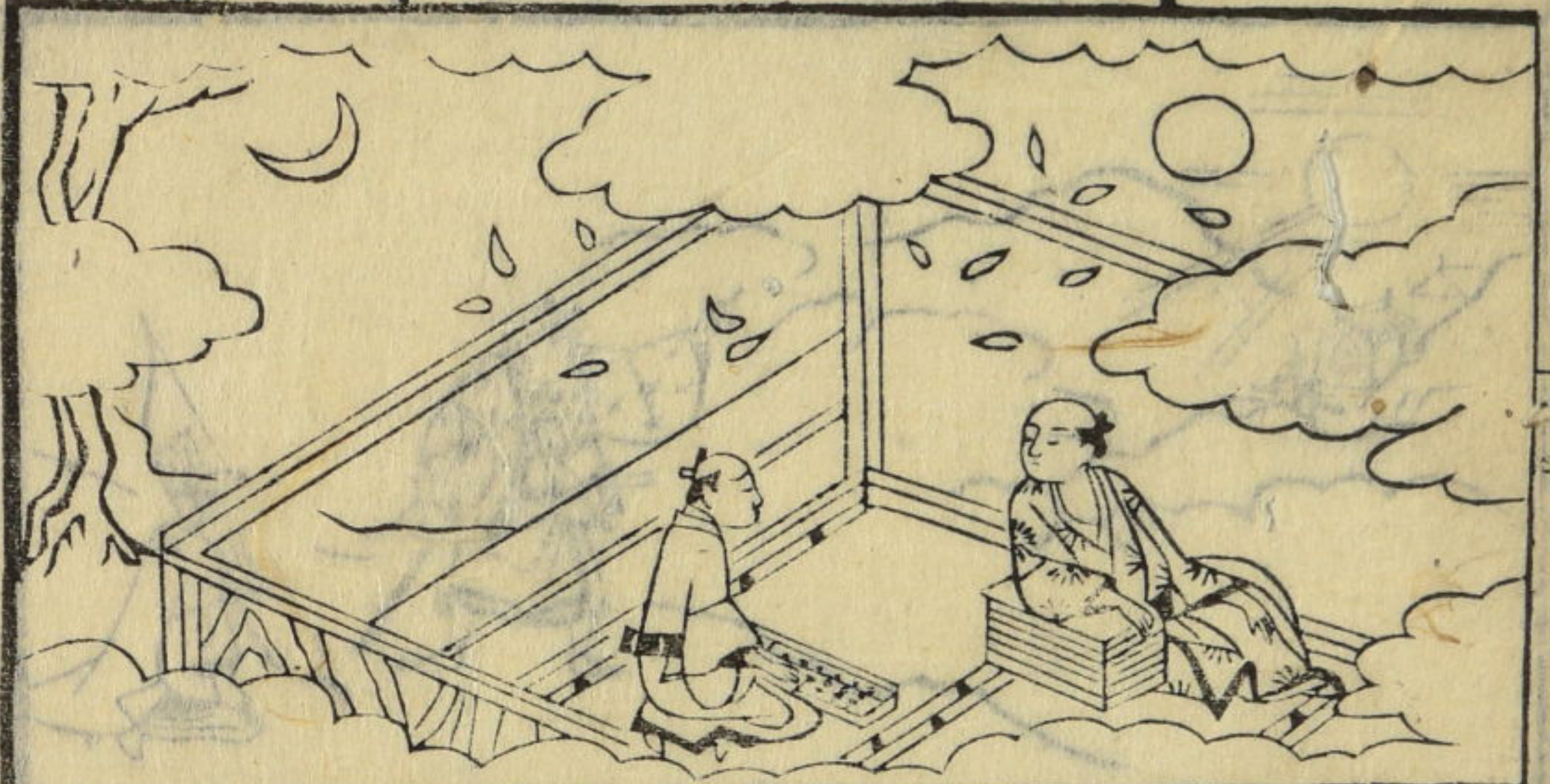
ととがこめ

光華映晚暉

あさうら



吉末六十三



先損後有益

先損後有益  
先損後有益

如月之剝蝕

如月之剝蝕  
如月之剝蝕

至免待重生

至免待重生  
至免待重生

光華當滿室

光華當滿室  
光華當滿室

吉半七十三



陰變未能通

陰變未能通  
陰變未能通

求名亦未逢

求名亦未逢  
求名亦未逢

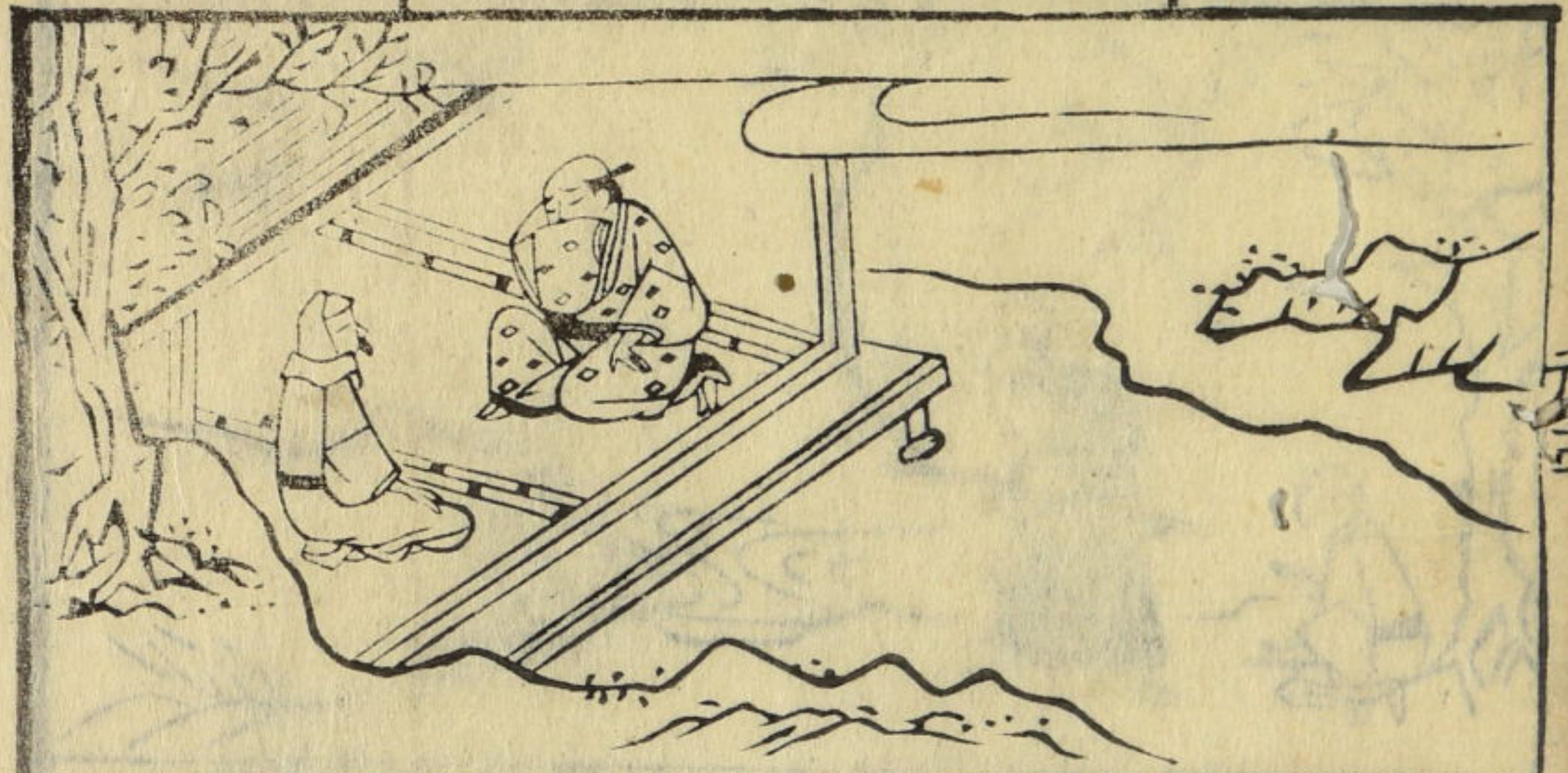
幸然須有變

幸然須有變  
幸然須有變

一箭中雙鴻

一箭中雙鴻  
一箭中雙鴻





月照天書靜

月一てんのぬ  
あまこ

雲生霧彩霞

あれどもいせらう  
こりかすまかゆぞ

久想離庭客

おかりふんくまて  
んよるあろこと

無事惹落嗟

ぶりのあしかりへ  
ぶり又なげさ  
あり



望用方心腹

んたのをみあれぬ

家郷被火災

あつめあいで耳で  
家とやくと  
あつべ

憂危三五度

うまひいどあり  
ふわうまひま

由損斷頭財

ゆせうしああり  
うへいもまこらひ  
とまへあひま



吉小末十四才



中正方成道

あつちのまじりて  
しるべし

蕪邪恐惹愆

あつちのまじりて  
まじりて

羣中盛妙藥

あつちのまじりて  
あつちのまじりて

非久去煩煎

あつちのまじりて  
あつちのまじりて

吉才一十四才



有物不周旋

あつちのまじりて  
あつちのまじりて

須防損半邊

あつちのまじりて  
あつちのまじりて

家鄉煙火裡

あつちのまじりて  
あつちのまじりて

祈福始安然

あつちのまじりて  
あつちのまじりて



吉二十四才



桂華春將到

法多方本とよまか  
されたるより揚  
あり

雲天好進程

天乃とよまか  
天にのがるみちと  
あり

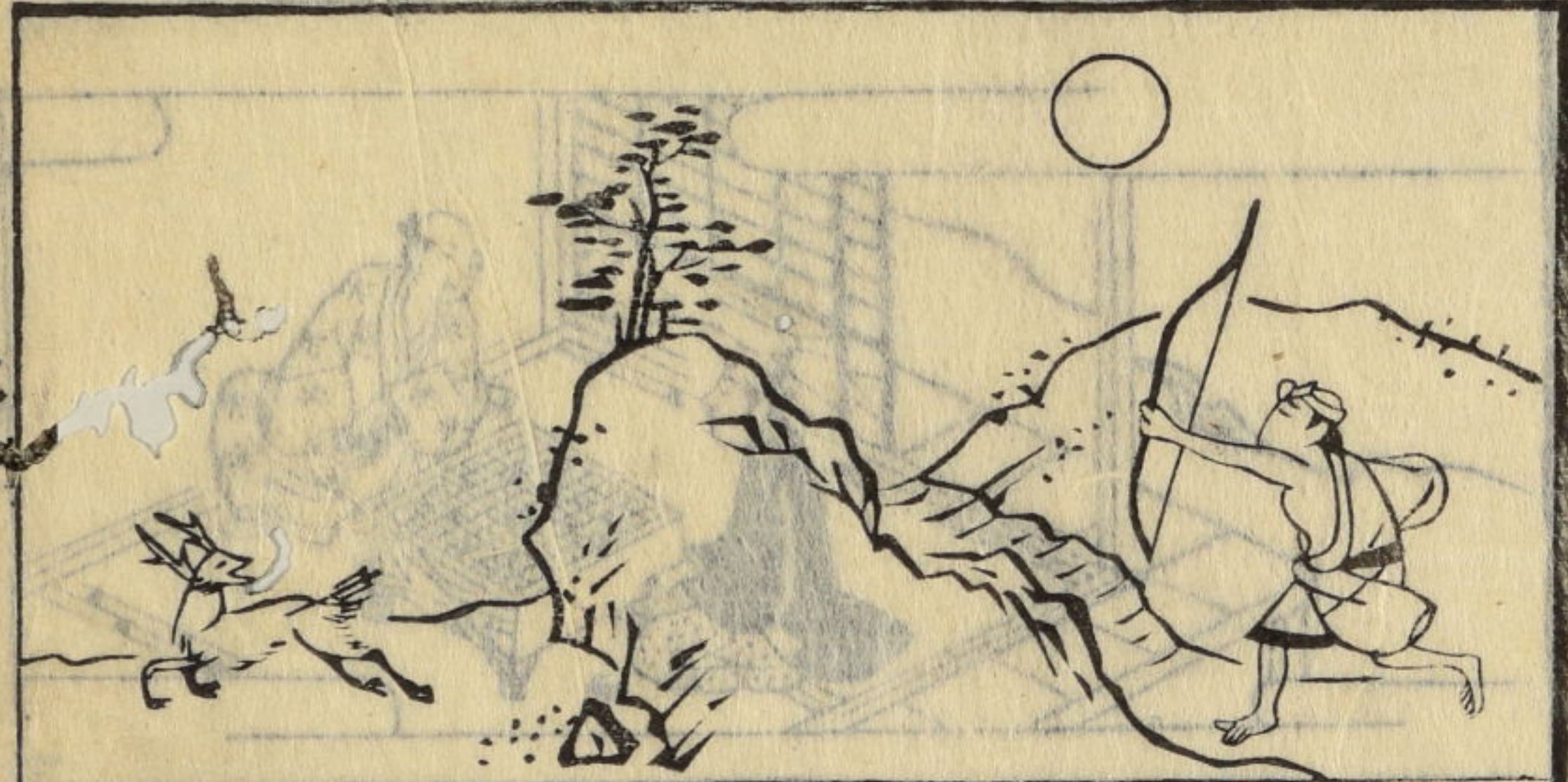
貴人相遇處

貴人ふあひあは  
あり

暗月再分明

物とにのる月  
乃とよまか  
あり

吉三十四才



月桂將相滿

十五あんまん  
あり

追鹿映山溪

追鹿とよまか  
あり

貴人乘遠箭

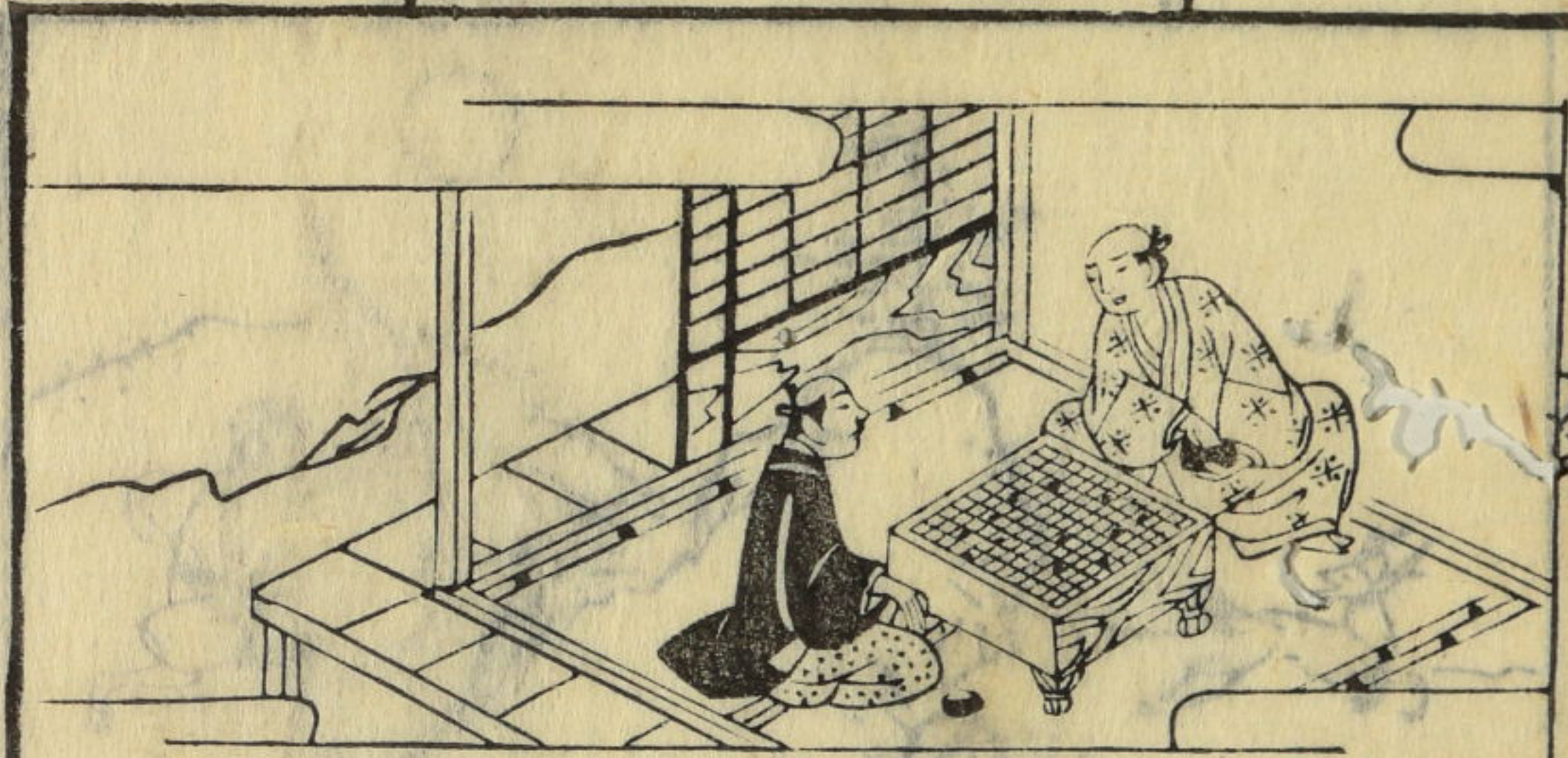
貴人乗遠とよまか  
あり

好事始相宜

好事始とよまか  
あり



吉 四 十 四 才



盤中黑白子

とハ盤の上ハ碁石  
とハ碁石にておの  
ありぞ

一著要機先

見てもとてハ碁  
とハ碁石にてあり  
ずそ

天龍降甘澤

とずやとてハ碁  
乃ありとありす  
やにありそ

洗出舊根碁

とハ碁石にてハ碁  
乃ありとあり地  
よりありとあり

吉 五 十 四 才



有意興高顯

とハ碁石にてハ碁  
乃ありとあり地  
よりありとあり

禄馬引前程

とハ碁石にてハ碁  
乃ありとあり地  
よりありとあり

得遇雲中箭

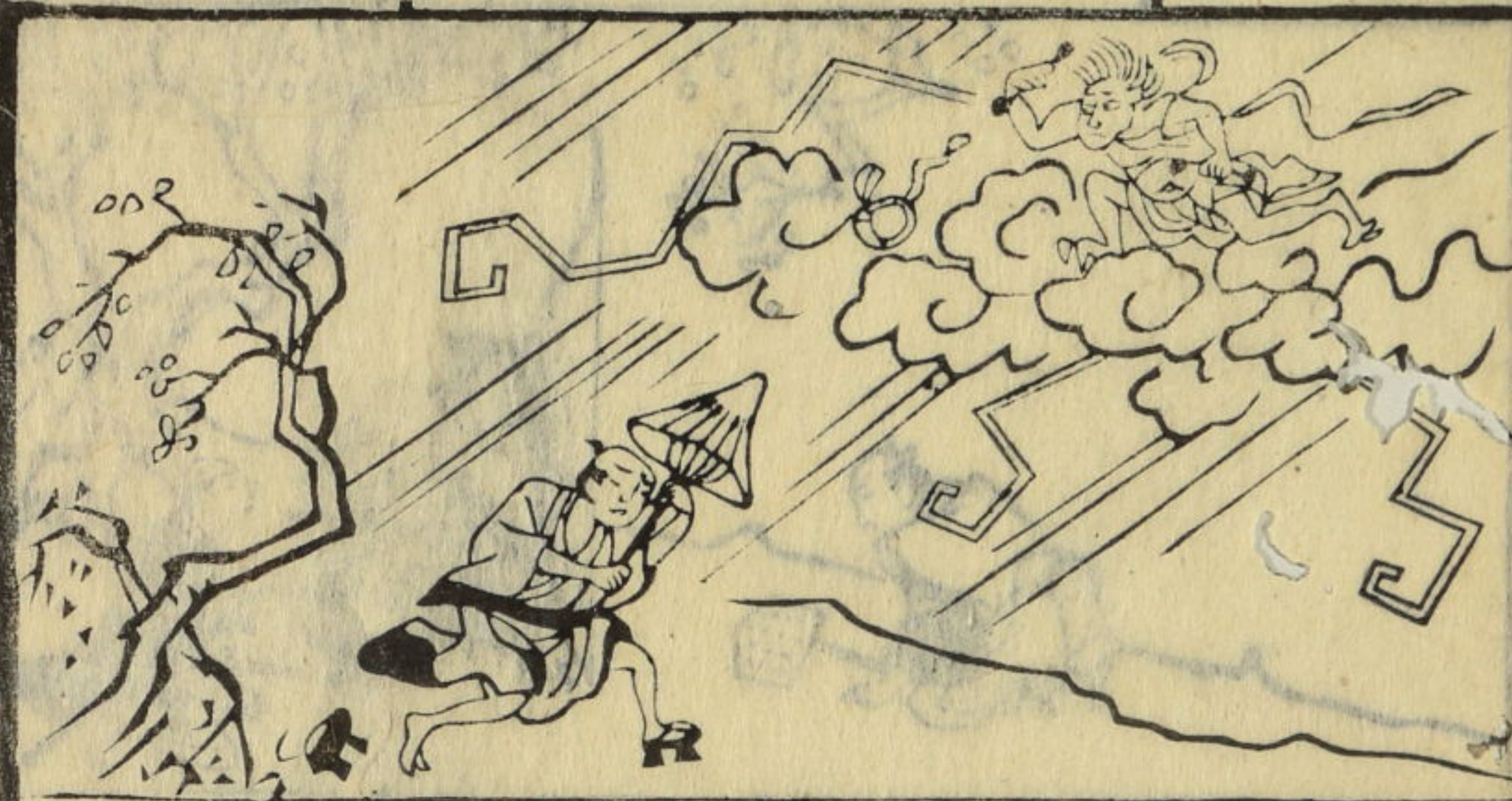
とハ碁石にてハ碁  
乃ありとあり地  
よりありとあり

芝蘭滿路生

とハ碁石にてハ碁  
乃ありとあり地  
よりありとあり



凶六十四才



雷發震天昏

そらうれをもちりい  
くづりまりまを  
おそうい

佳人獨掩門

くじんハ人の目て  
しうよれよいり  
門とぞらえハあしく

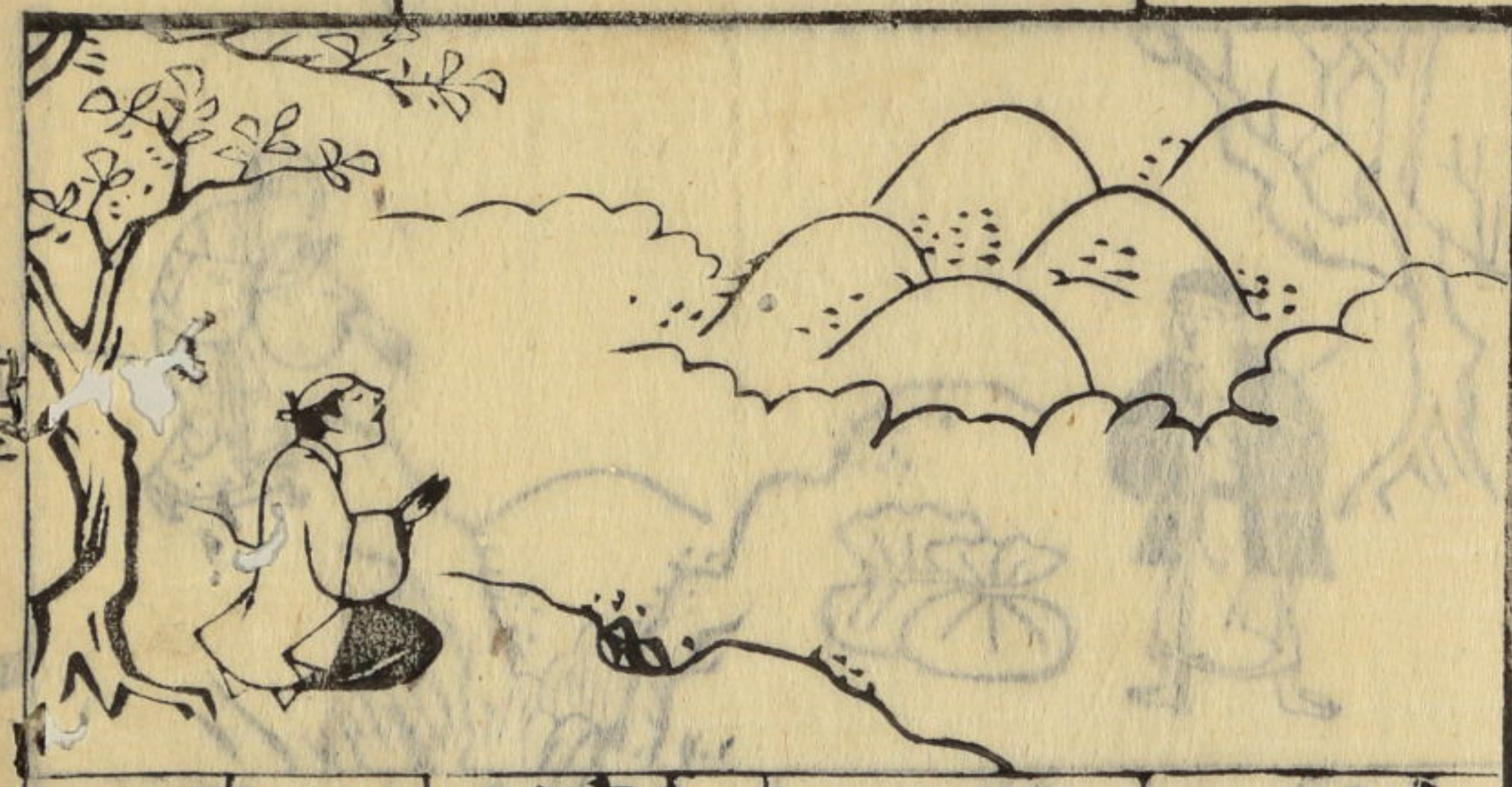
交加文書上

物家あしんよび

無事也遭巡

くじんのさあにち  
わきまあり

吉七十四才



更望身前立

つぎこのぞいけを  
目のまおまこらあ  
ぐ

何期在晚成

おまののちそくう  
あまそくゆるを  
あり

若過重山去

山とらあれだ出の  
字ハ山あぞく人  
てあしん

財祿自相迎

さいりくハあまの  
むらむら



吉小八十四才



見祿隔前溪

見祿隔前溪

勞心休更迷

勞心休更迷

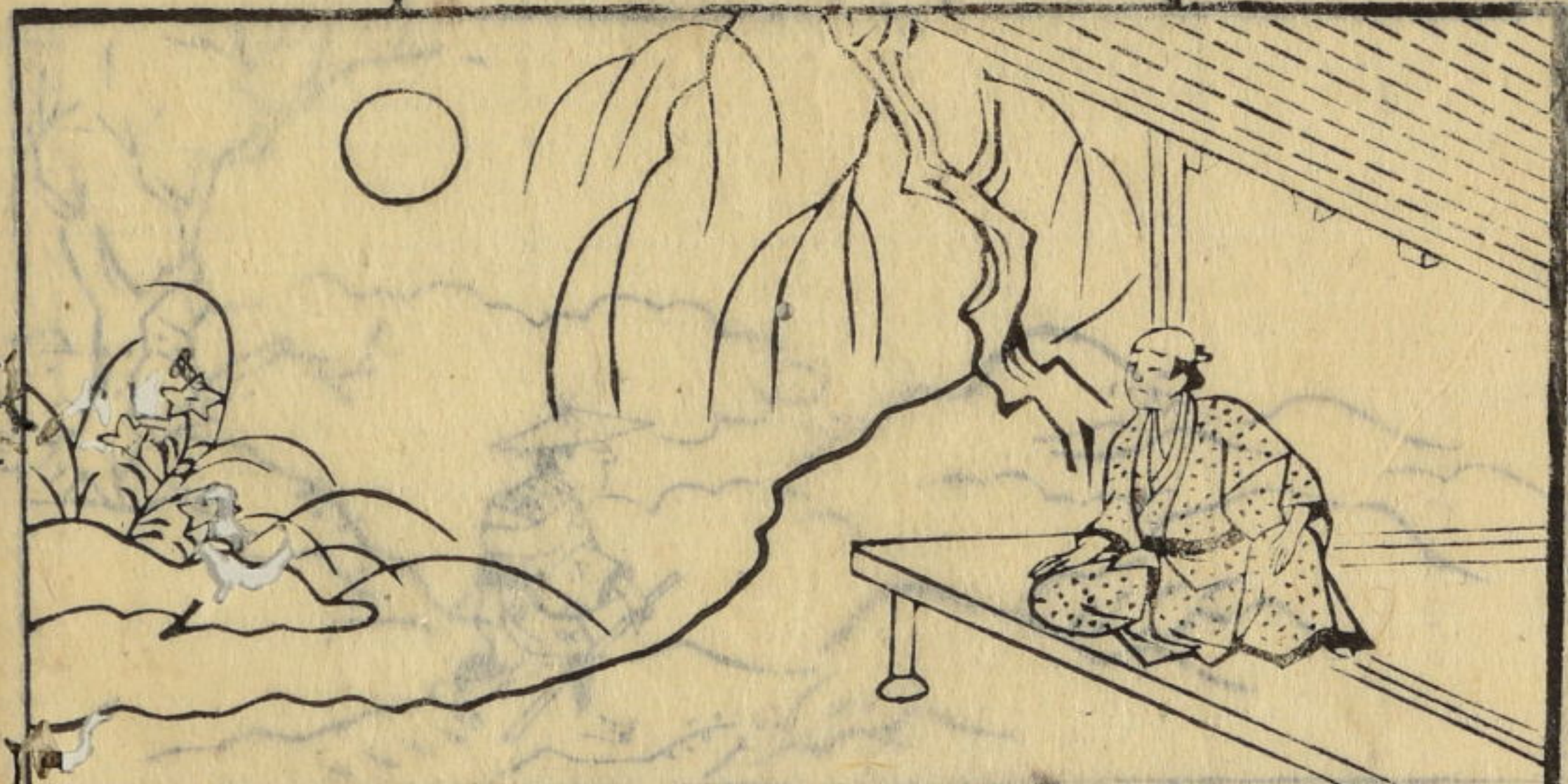
一朝逢好渡

一朝逢好渡

鸞鳳入雲飛

鸞鳳入雲飛

吉九十四才



正好中秋月

正好中秋月

蟾蜍皎潔間

蟾蜍皎潔間

暗雲知甚處

暗雲知甚處

故故兩相攀

故故兩相攀



吉十五才



有達宜更變

ふたつとめいふが  
まじりよきうを  
てし

重山利政逢

山とつれれで出  
のびこもあつ  
そいでし

前途相偶合

それめつたて  
よきのみが

財禄保享通

ふいめしきと  
りともりとも  
すぞ

吉一十五才



修進甚功奇

あつてとつとつと  
あつたふらとつとつと  
らふぞ

勞生未得時

あつてとつとつと  
たのらにうたあつ  
いましつとつとつと

騰身遊碧漢

つとつとつとつと  
よそへつとつとつと  
とつとつと

方得遇高枝

あつたつとつとつと  
つとつとつと



丙二十五才



有徳須若訟

いふ徳をいふに  
人をもげべし

兼有事交加

かひの事と  
あひの事と

門裏防人厄

かきり  
あひの事と  
あひの事と  
あひの事と

災臨莫嘆嗟

まじり  
あひの事と  
あひの事と  
あひの事と

吉三十五才



久困漸能安

く  
あひの事と  
あひの事と  
あひの事と

雲書日降印權

あひの事と  
あひの事と  
あひの事と

殘花終結實

あひの事と  
あひの事と  
あひの事と

時亨祿自選

あひの事と  
あひの事と  
あひの事と



吉 四 十 五 才



身同意不同

身ハ何れも同じ  
心ハ別してそのハね  
ぞ

月蝕暗長空

月蝕するは長空  
くにくもるごと  
きよ

輪雖常在等

このうちには  
とわれども

魚水未相逢

うまのみにあは  
しなくぞあはれ  
なくともいふもあ  
やういぞ

吉 五 十 五 才



雲散月重明

月にくはらぎを  
もそあまらうか  
ぞ

天書得誌誠

てんちよきそ  
でいあぞ

雖然多阻滯

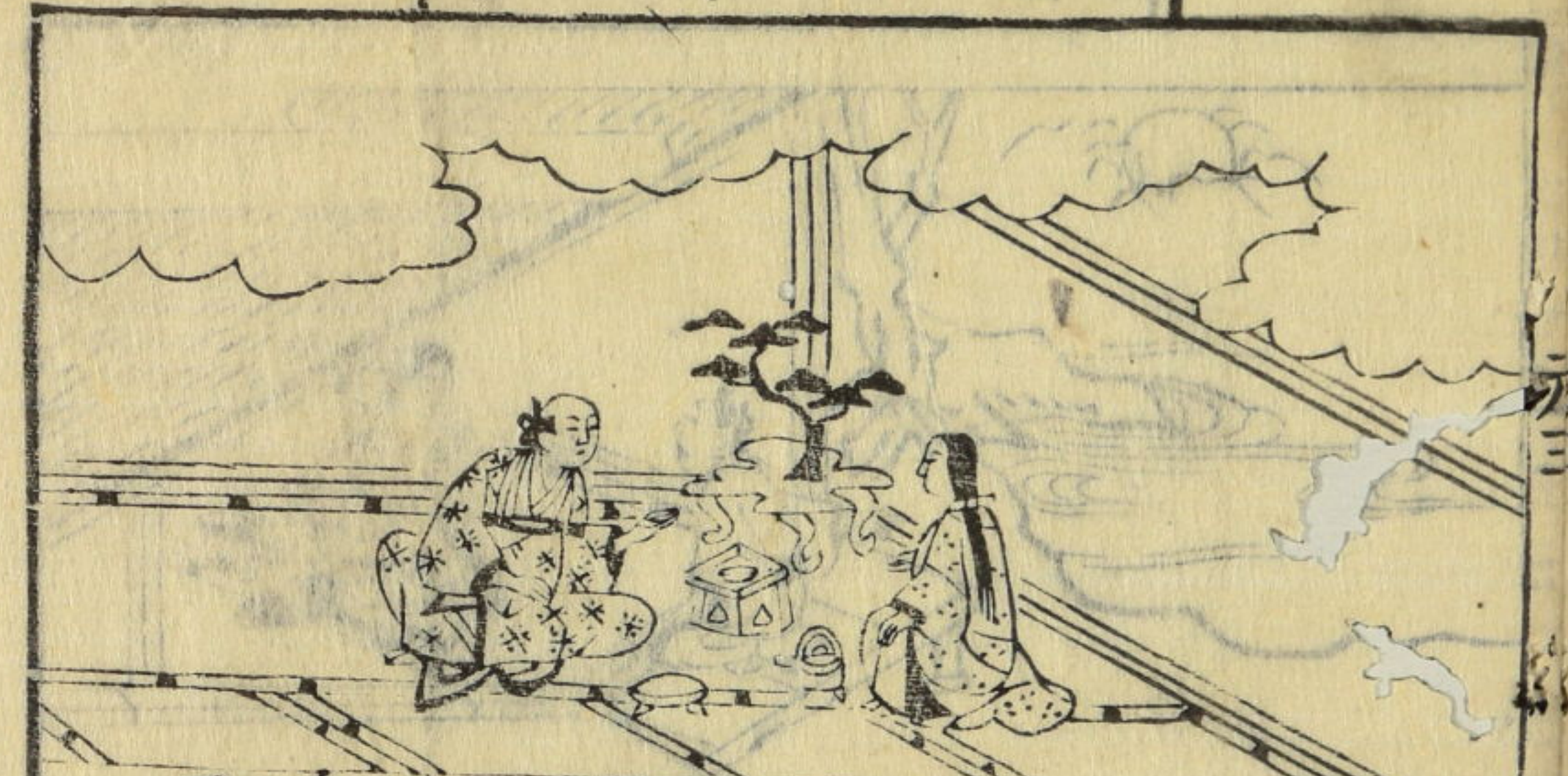
たふらひへ  
人あつとも

華發再重榮

かほひしてさ  
つにあそめす  
あり



吉小未六十五亦



生涯喜復憂

未老先白頭

勞心千百度

方遇貴人留

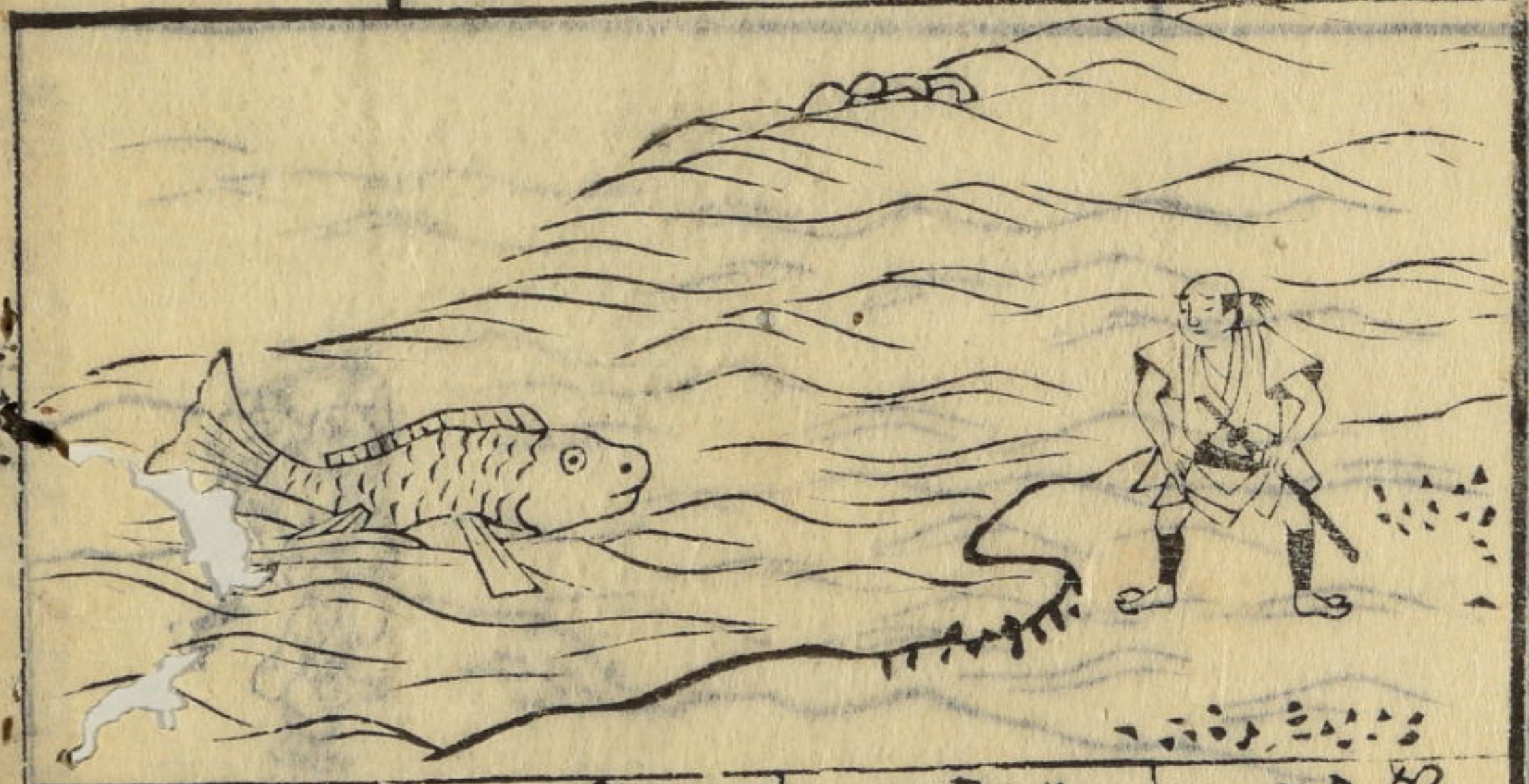
いぢもしちびを  
あれどもまこと  
まことのこころ

それかめてちや  
新んあれども  
ちりさこ

千び百び  
くらうちや  
づ

あれどもまこと  
めれあてしち  
人よあれども  
ぞ

吉七十五亦



欲渡長江闊

波深未自儔

前津逢浪靜

重整釣魚釣

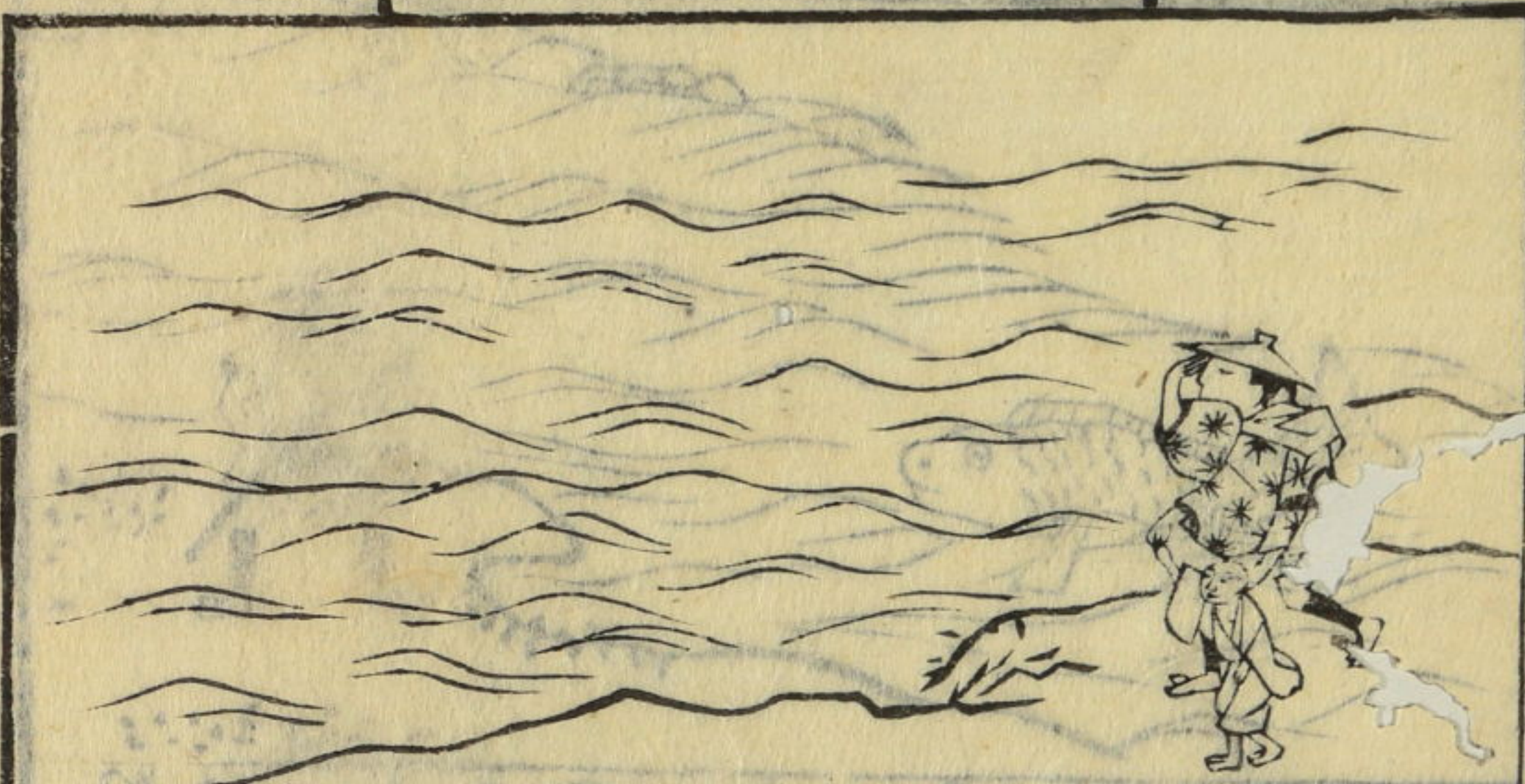
ひらきうい  
らんとすん  
ら

あまのう  
らもらうい  
ぞ

さりあぐあ  
あひまりて

ちああくと  
すくはうと  
あへさぞ





有徑江海隔

車行峻嶺危

亦防多進退

猶恐小人虧

ありみればしうのへそ  
がわりてへそよ  
けるぞ

けりきまにむ  
うひくるはとわ  
まがてくぞ

りくくしたらだ  
あんどのと  
かまのぞ

いふゆきたまん  
ぞくにりありしう  
大さなり



去住心無定

行藏亦未寧

一輪清皎潔

卻被黑雲乘

ぢうあふにんごん  
まゝぬぞ

ゆまんかんとま  
やすんぬぞ

月をよんごん  
とすれぬ

又うららのてその  
もろぬぞ



吉小十六弟



高たか危あやう安やす可べ涉た

あやういよああり  
よもやすくと  
たか

平へい坦たん是これ延えん年ねん

さうあうたう  
かろあがあう  
うしあう

守まも道みち當あた逢あ泰たい

たうたうと  
いのうあう  
まあり

風かぜ雲ぐも不ふ偶ぐ然ぜん

かぜぐもふぐ  
うふうあう  
きざ

凶一十六弟



舊ふる德とく何なに日ひ解と

ひうのあをこひ  
さういつう日に  
たう

戸と内うち保たも婢め娟づ

うらたはうかう  
さうさうあう  
あさう

要よ逢あ十じゅう一いち占せん

あさうにあり  
あうあう  
うし

遇あ鼠ねず過あ牛うし處ところ

子のうし  
うし  
うし



才二十六大吉



災輒時時退

災のつひと退く  
くはあつた

名顯四方揚

名が四方に揚る  
うれあつた

政故重乘祿

政の故に重なる  
いふとあつた

昇高福自昌

福が高くなる  
あつた

才三十六凶



何故生荆棘

何故に棘が生ず  
あつた

佳人意漸疎

佳人の意が疎  
あつた

久困重輪下

久しく重なる  
あつた

黄金珠出渠

黄金の珠が渠  
あつた





安居且慮危

あんごんくろおんごん  
あやすくわてし思  
ども又あやうた  
のこちり

情深主別離

こころあかりし  
べんせいと  
あさけあういん  
んあまのあざし

風飄波浪急

かぜのあつらんらん  
なみなみ  
よよあつて

鴛鴦各自飛

あんなんごうあひあひ  
あひあひ  
くはあひあひ  
ごぞ



苦病兼防辱

くるんでやまひと  
あぢかり  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく

乘危亦未穩

あつてきた  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく

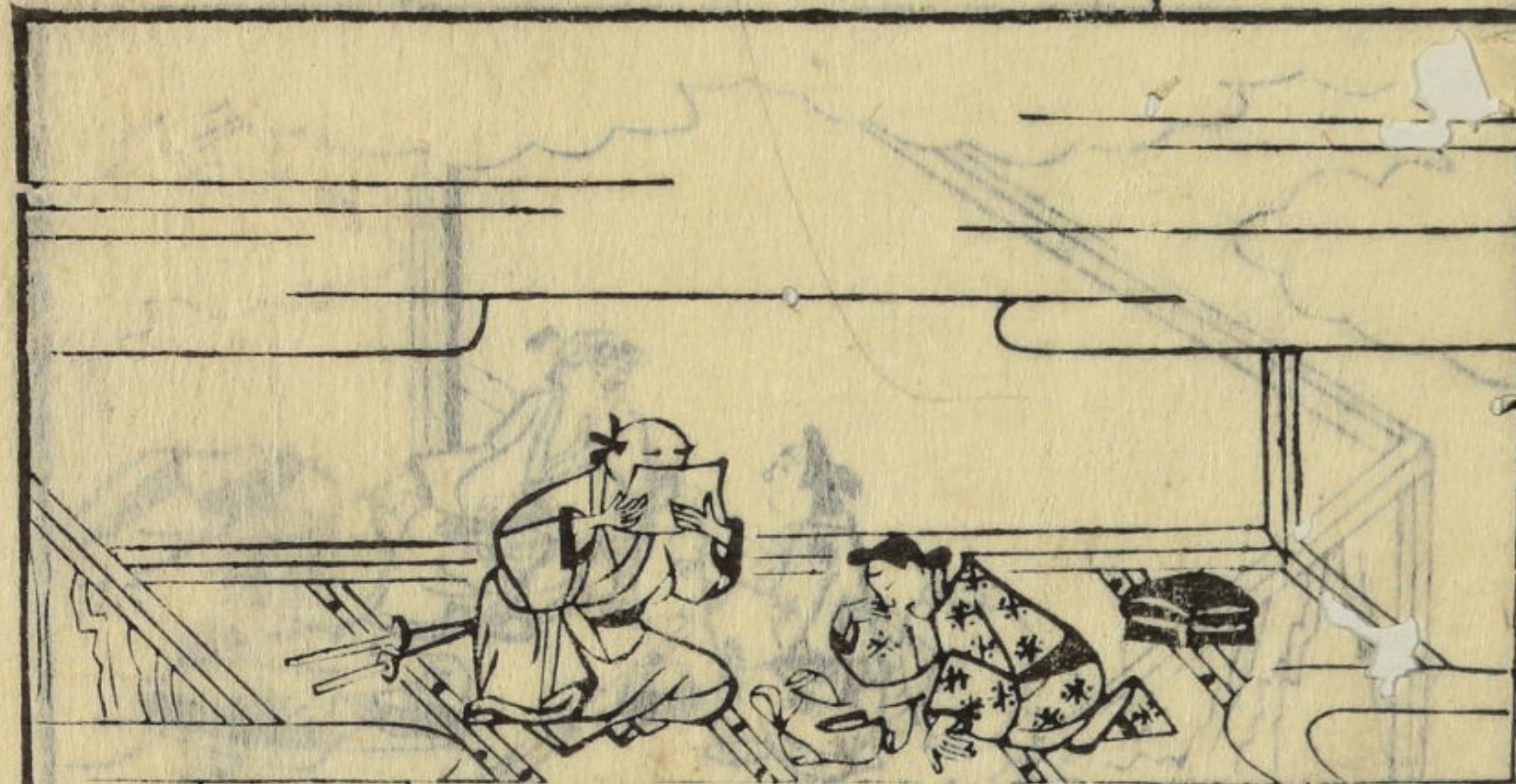
若見一陽後

わがみい  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく

方可作良圖

またべし  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく  
あまひいらく





水滯少波濤

あまのきつこつ時をたらし  
しづむるあまのやみは  
しづむる

飛鴻落羽毛

あまのきつこつ時をたらし  
しづむるあまのやみは  
しづむる

重憂心緒亂

あまのきつこつ時をたらし  
しづむるあまのやみは  
しづむる

閑事若風騷

あまのきつこつ時をたらし  
しづむるあまのやみは  
しづむる



枯木未生枝

あまのきつこつ時をたらし  
しづむるあまのやみは  
しづむる

獨歩上雲梯

あまのきつこつ時をたらし  
しづむるあまのやみは  
しづむる

豈知身未穩

あまのきつこつ時をたらし  
しづむるあまのやみは  
しづむる

獨自惹閑非

あまのきつこつ時をたらし  
しづむるあまのやみは  
しづむる



吉 八十六才



異夢生英傑

千人万人のまじり  
まじりて一のゆめ  
みごとし

前來事可疑

ゆくべのゆめごと  
しきてとらふごと

芳菲春日暖

はるの日はぬく  
くゆくてあつた  
ぞ

依舊見殘枝

くれもれんかさふ  
下しくみぞと  
ぞ

凶 九十六才



明月暗雲浮

あきつうなる月  
うたふらふぞ

華紅一半枯

くれか井の花  
いろらうれぞ

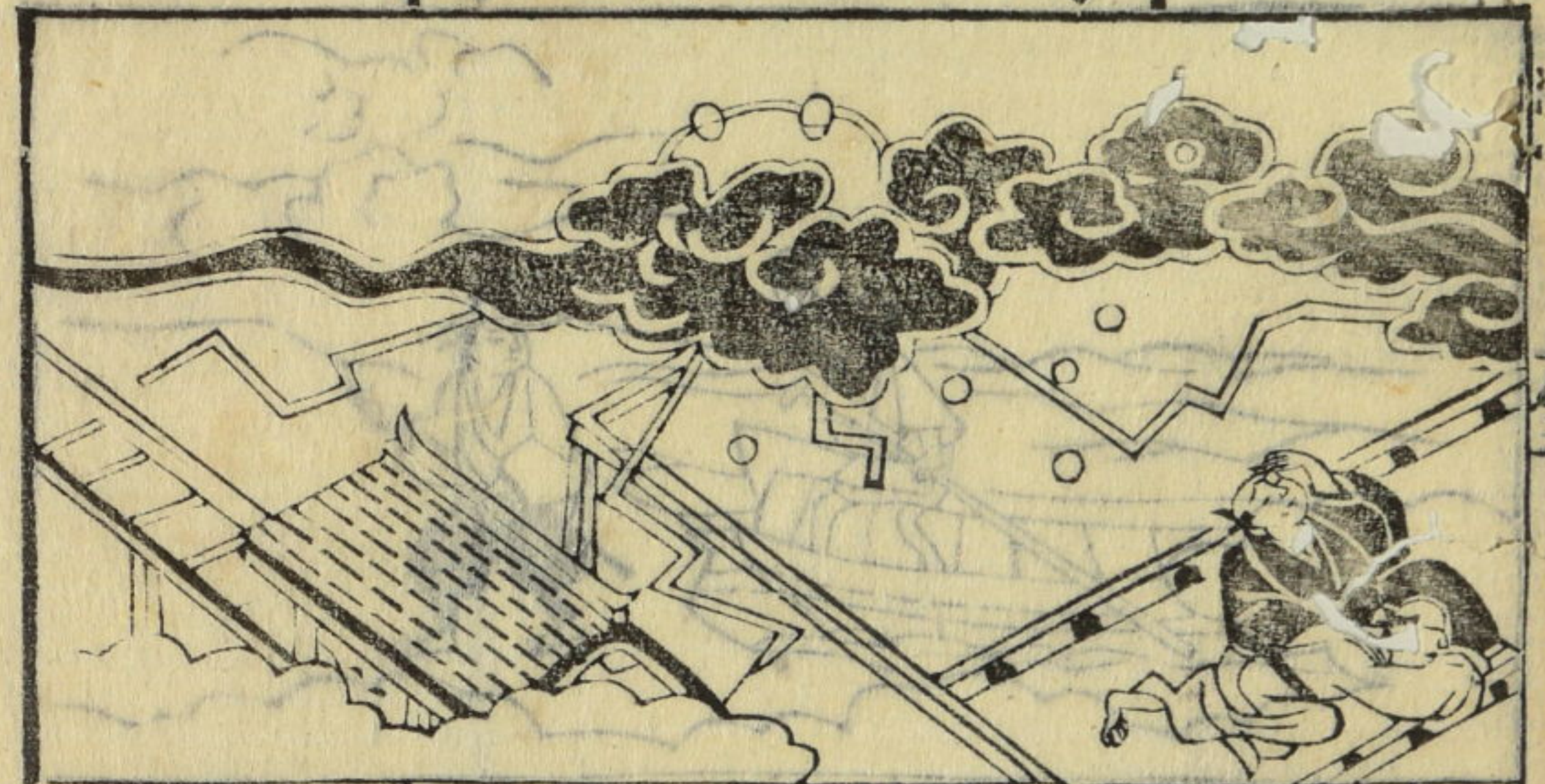
惹事傷心處

しんごきふと  
しんごきふと  
まじりて

行舟莫遠圖

あはれごとと  
あはれごとと  
べ





雷發庭前らいはつていぜん

かみのくさかざり  
らへがあらせいづら  
んまり

炎火向天飛えんくわじやうてんひ

らへららうがひらめ  
と天にまひのが  
けいせうしんぞ

一心來起いしんらいき

わらたうらとかい  
うあめぞ

爭奈掩朱扉せんないおほしゆひ

とんことぞらて  
とさるまへぞ



道業未成時だうごうみせいじ

あんらあまら  
あさうしとれ  
よあめまり

何期而不宜なんごにふし

やのあうとつた  
わらんあさう  
しとらあせ

事煩心緒亂じはんしんじゆらん

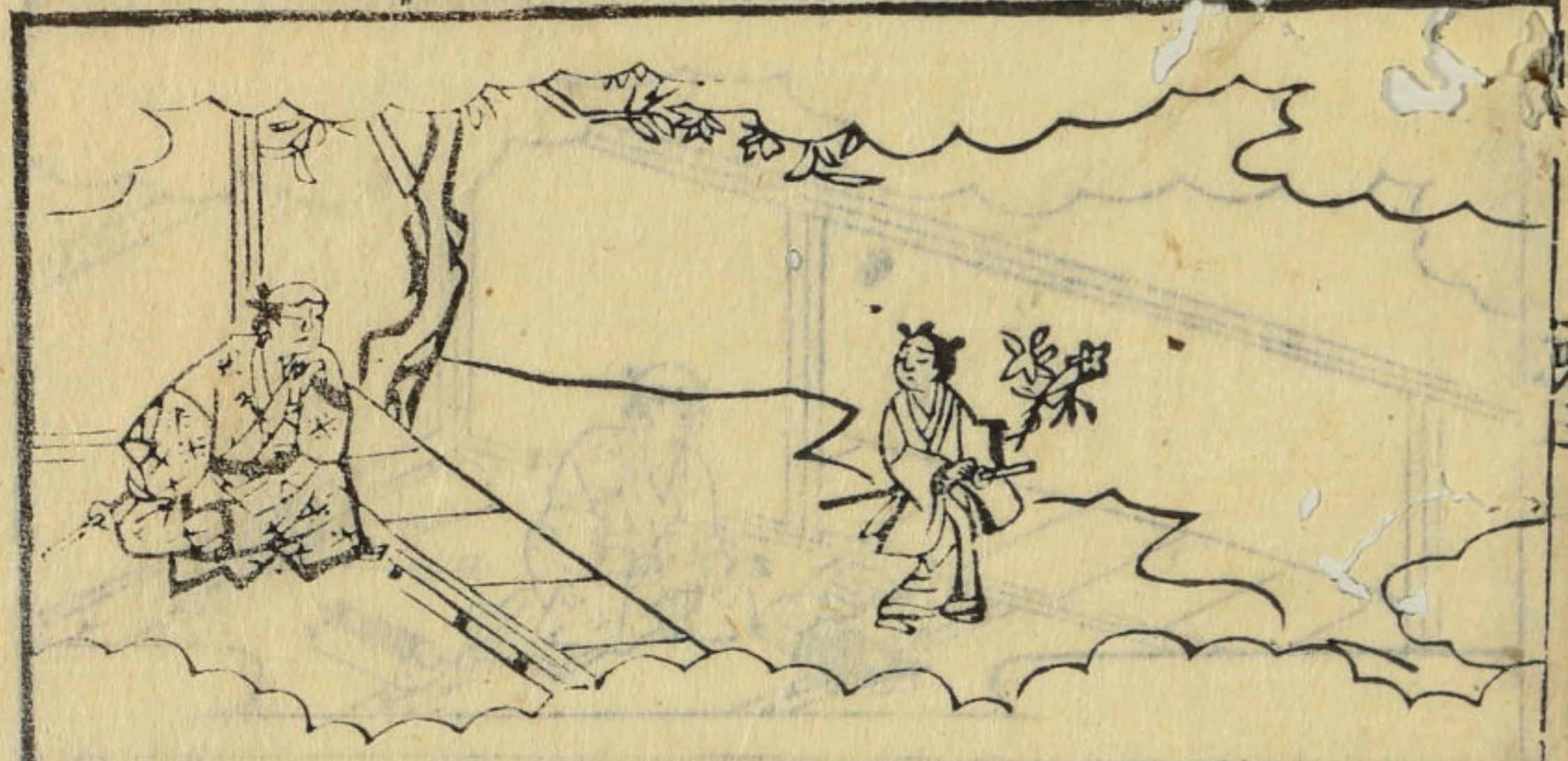
ふいさうくあ  
めら

翻作意徘徊はんさくいぱい

ふいさうあ  
くまり



吉二十七才



戸内防重厄

戸内防重厄  
とらひひつかり  
とらひひつかり  
あり

華菓見分枝

華菓見分枝  
とらひひつかり  
とらひひつかり  
あり

嚴霜纒過後

嚴霜纒過後  
とらひひつかり  
とらひひつかり  
あり

方可始相宜

方可始相宜  
とらひひつかり  
とらひひつかり  
あり

吉三十七才



久暗漸分明

久暗漸分明  
とらひひつかり  
とらひひつかり  
あり

登江緑水澄

登江緑水澄  
とらひひつかり  
とらひひつかり  
あり

芝書徒遠降

芝書徒遠降  
とらひひつかり  
とらひひつかり  
あり

終得異人成

終得異人成  
とらひひつかり  
とらひひつかり  
あり



才七十四函



蛇虎正交羅

どやこまたまらるる  
まへまへにわこにま  
どらふかきさこ

牛生二尾多

うしうまれびかくし  
二つららわらわ  
さかり

交歳方成慶

まへてうせままこにかきり  
うしあふまねも

上下不能和

うへかへあひあひ  
うらうせぬぞ

才七十五函



孤舟欲過岸

こいふねのり  
ひらりきり  
とすれん

浪急浪人空

なみせきなみし  
あふたあそ  
あつね

女人立流水

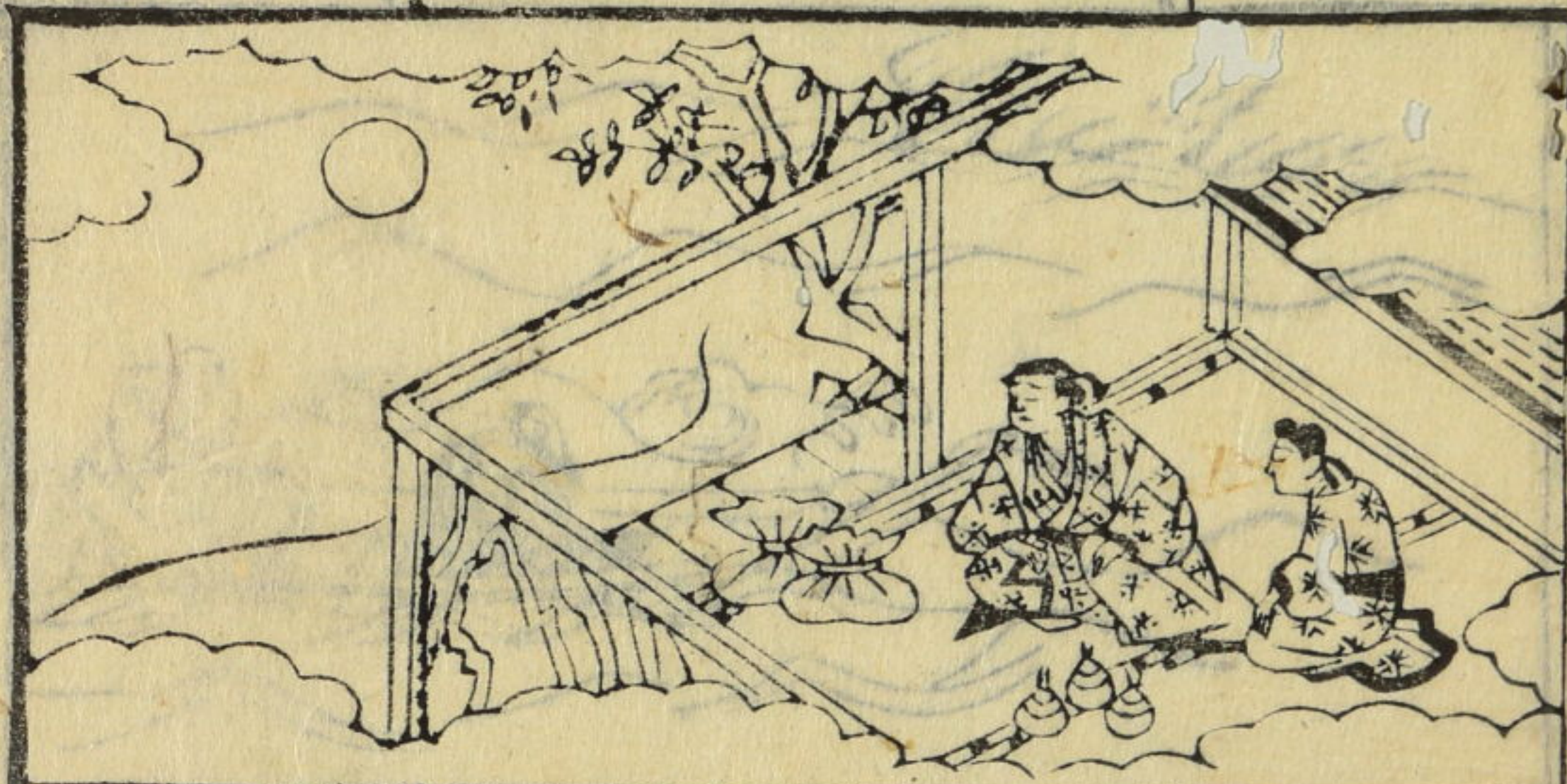
おんなたちり  
うらうら  
らだうらうら  
まり

望月意情濃

のぞいてつぎ  
とらんこせり  
とし



吉六十七才



富貴天之祐

あつこつてんのかいり  
あつこつてん

何須苦用心

なんぞたかくらあつこ  
あつこすしんま  
あつこ

前程應願跡

まへてのまへしわをせ  
あつこつてん  
あつこ

久用得高昇

ひさしくあつこつてん  
あつこつてん  
あつこ

西七十七才



累滯未能獲

あつこつてんあつこ  
あつこつてん  
あつこ

求名莫遠圖

あつこつてんあつこ  
あつこつてん  
あつこ

登舟波浪急

あつこつてんあつこ  
あつこつてん  
あつこ

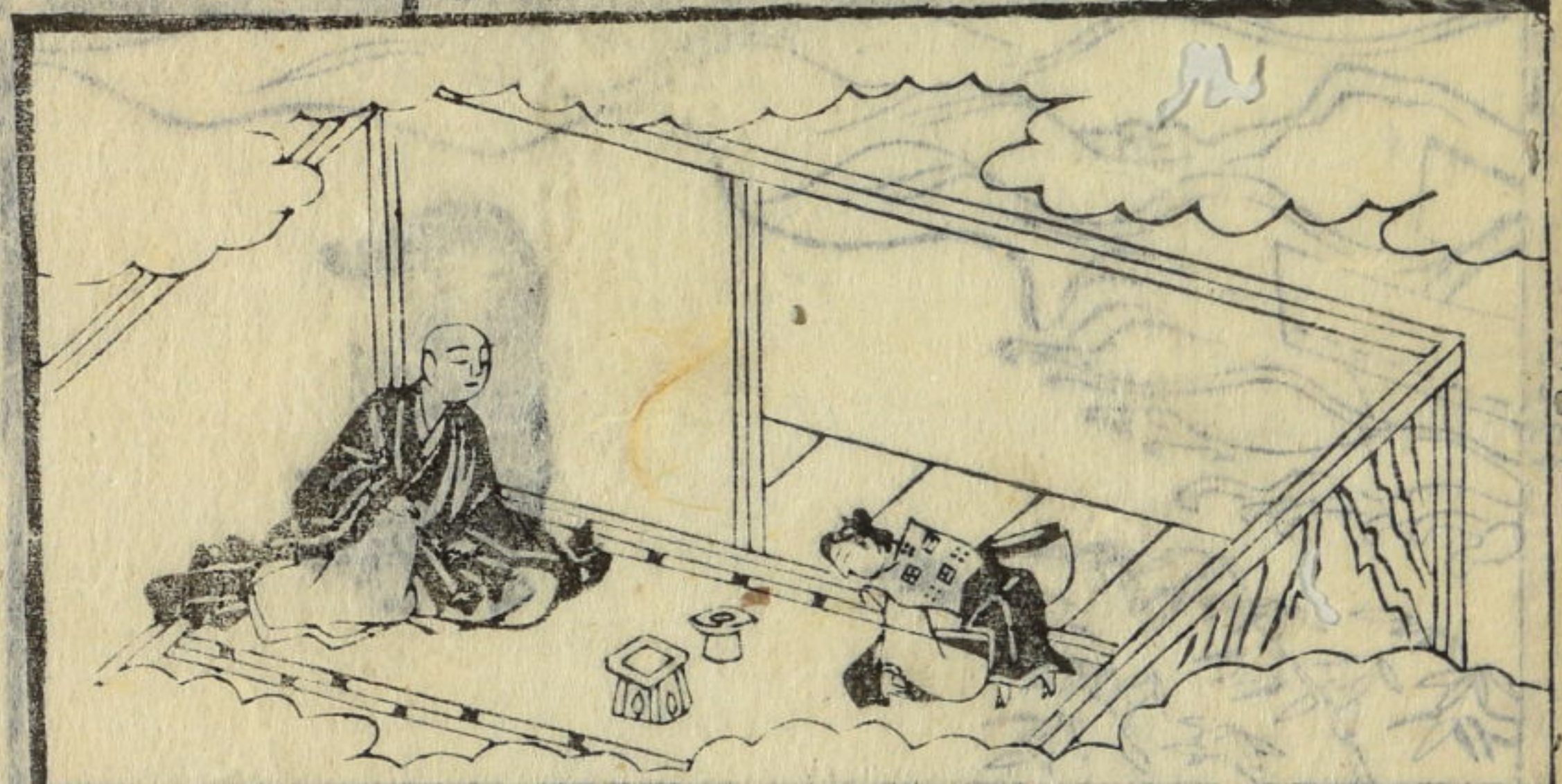
咫尺隔天衢

あつこつてんあつこ  
あつこつてん  
あつこ

四十五



才七十八犬吉



但存公道正

しかる人みちう  
べしすまの人と  
とる人しとと  
とせむ

何愁理去忠

ちうせのしりだ  
り理もつとで  
まぞ

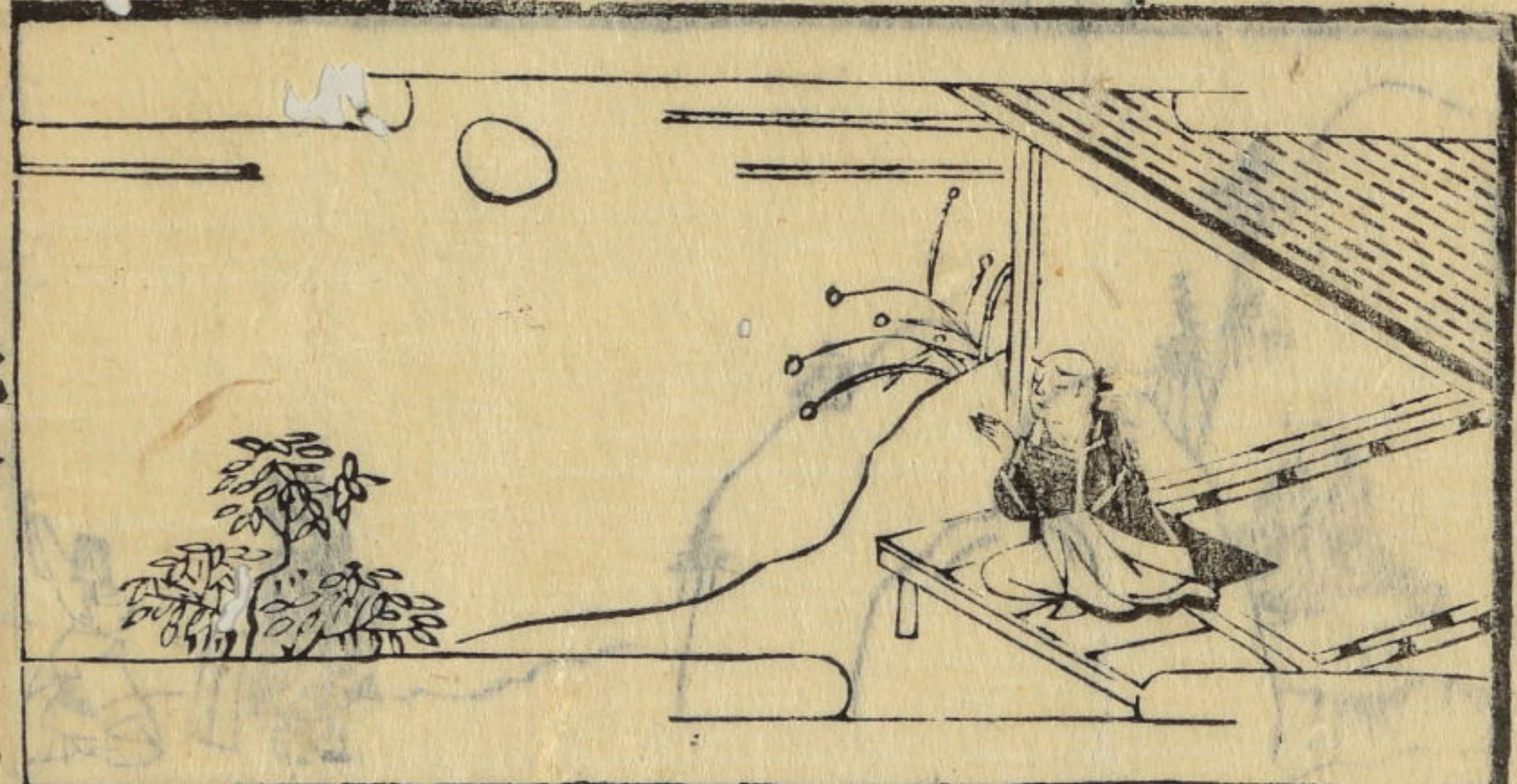
松栢蒼蒼翠

つよとへんせす  
つものまて  
あらうとて

前山祿馬重

それあむたふく  
りいさくさあ  
かすしと

才七十九吉



殘月未還光

げんげのいさひり  
はのらる月のと  
ひうりうすと  
へんせむとて

樽前非語傷

さけかたに  
さけのしと  
るかぬ

戸中有人厄

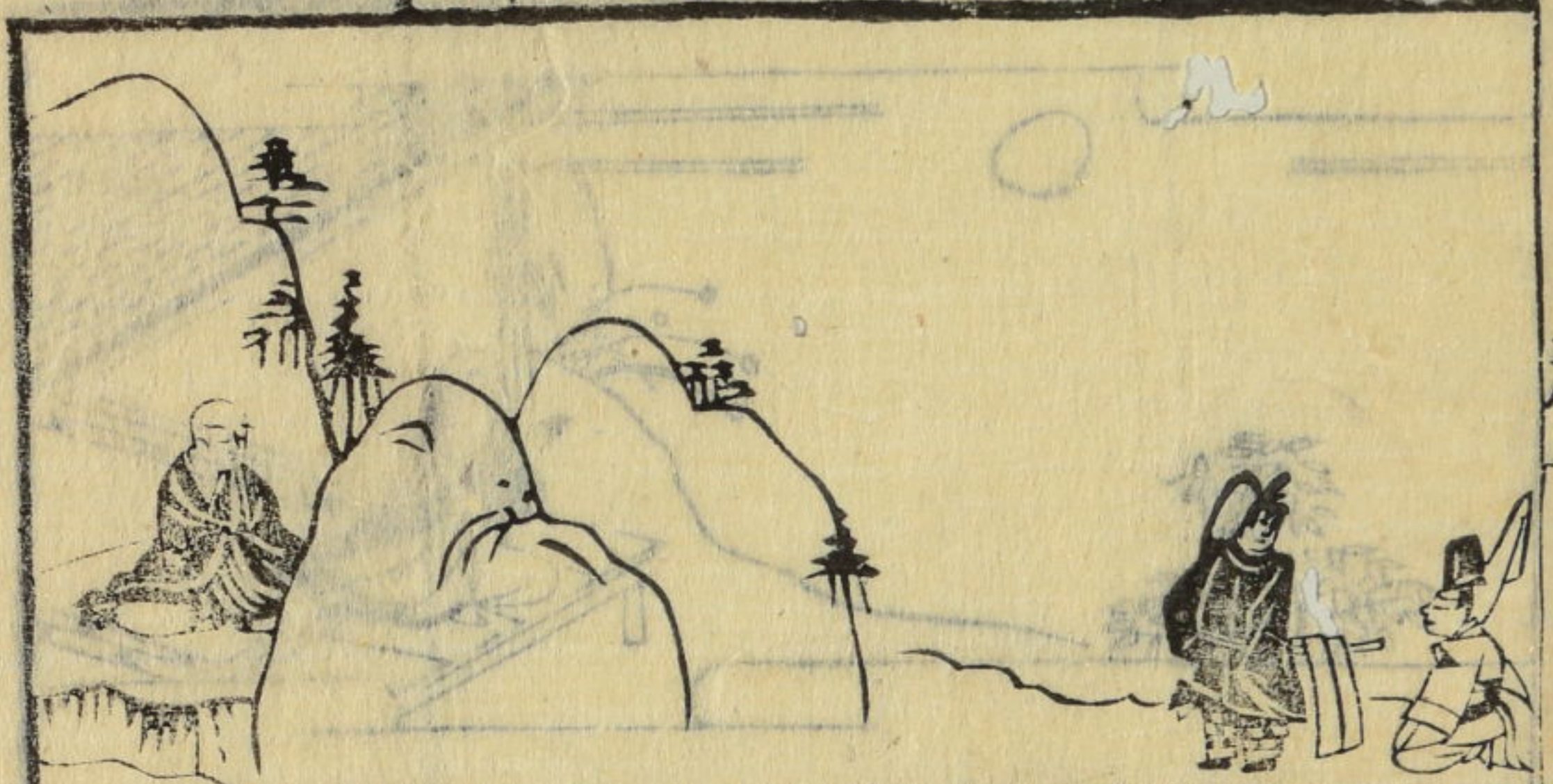
くあいのがつて  
こわぞ

祈福保青陽

あくとあつた  
月乃すま二月  
乃らあがふ  
ぞ



才十八大吉



深山多養道

あんなにむくちまを  
と天をうらやまう  
あいなまひ

忠正帝王宣

あんなにむくちまを  
と天をうらやまう  
あいなまひ

鳳遂鸞飛去

あんなにむくちまを  
と天をうらやまう  
あいなまひ

昇高過九夫

あんなにむくちまを  
と天をうらやまう  
あいなまひ

才一十八小吉



道合須成合

あんなにむくちまを  
と天をうらやまう  
あいなまひ

先憂事直多

あんなにむくちまを  
と天をうらやまう  
あいなまひ

所求財寶威

あんなにむくちまを  
と天をうらやまう  
あいなまひ

更變得中和

あんなにむくちまを  
と天をうらやまう  
あいなまひ



酉 二十八才



火發應連天

いんりてまたけらきりてんた  
あんなくはふけら  
あひてあふしあ  
けあけあけ

新愁惹舊愁

あんなくはふけら  
あひてあふしあ  
あひてあふしあ

欲求千里外

あひてあふしあ  
あひてあふしあ  
あひてあふしあ

要渡更無船

あひてあふしあ  
あひてあふしあ  
あひてあふしあ

酉 三十八才



舉步出雲端

あひてあふしあ  
あひてあふしあ  
あひてあふしあ

高枝未可攀

あひてあふしあ  
あひてあふしあ  
あひてあふしあ

昂頭看皎月

あひてあふしあ  
あひてあふしあ  
あひてあふしあ

猶在黑雲間

あひてあふしあ  
あひてあふしあ  
あひてあふしあ



酉 四 十 八 才



否極方無泰

何事もやんとして  
すもやんとしてハ  
ありぬ

華開値晩秋

よき秋のそよひひく  
とくをあたにす  
る

人情不調備

人のあはれも  
そのそよひ

財寶鬼來偷

わが財宝も  
鬼にすてぬす  
見とりのつひひん  
とす

吉 大 五 十 八 才



望用何愁晚

あつどのそよひを  
のぞむとわが  
さよとてらむか

末名漸得寧

あつとてらむか  
おとろにむか  
さよ

雲梯終有望

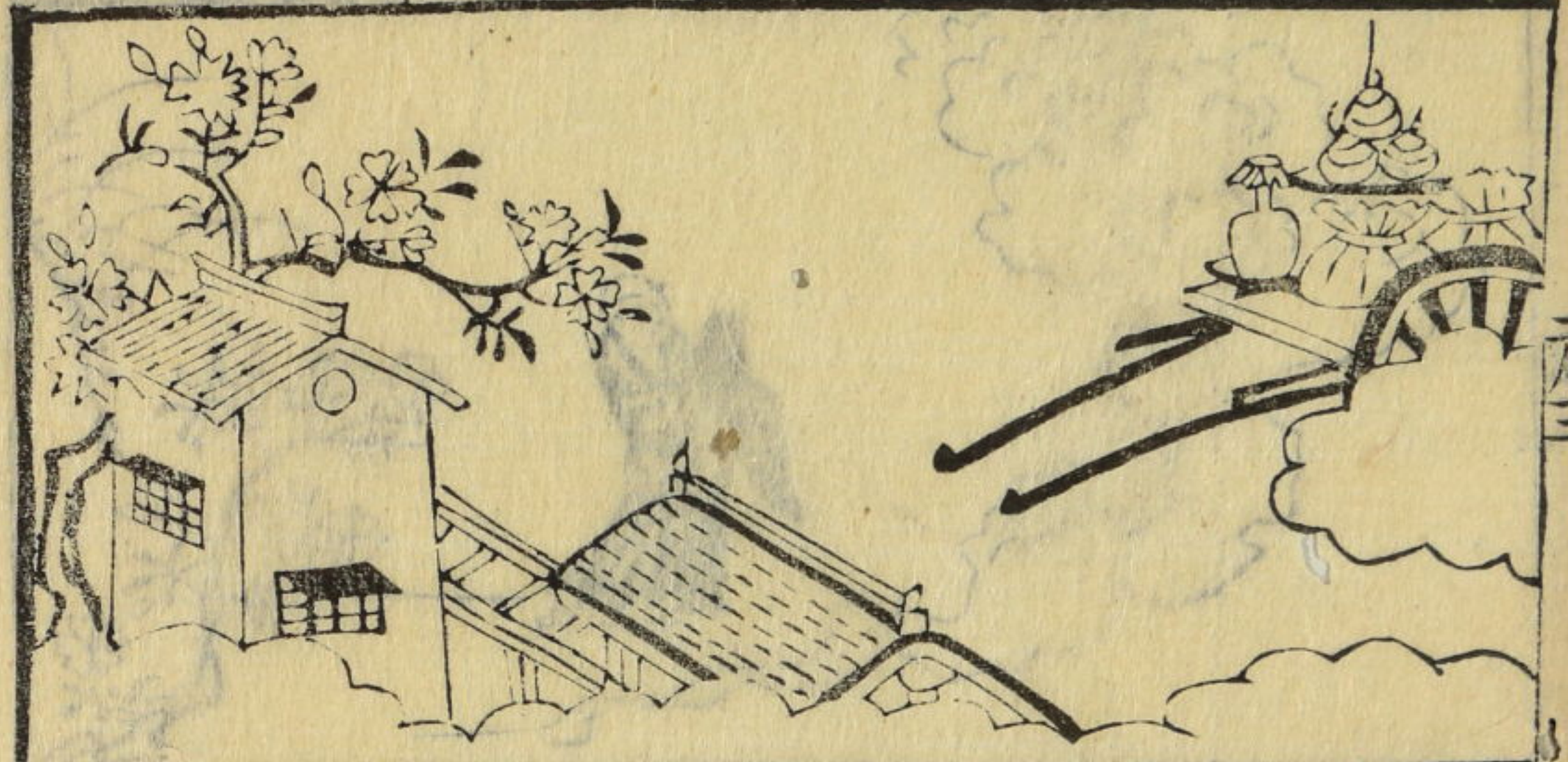
くもにけし  
よがぬそよひ  
あり

歸路入蓬瀛

あつとてらむか  
あつとてらむか  
あり



才八十六大吉



華發應陽臺

ふかきとちんぼり  
てひりげをいやく  
いりつとます

車行進財寶

ふかやうハハる海に  
ゆんでふかふか  
ふかこらあふす

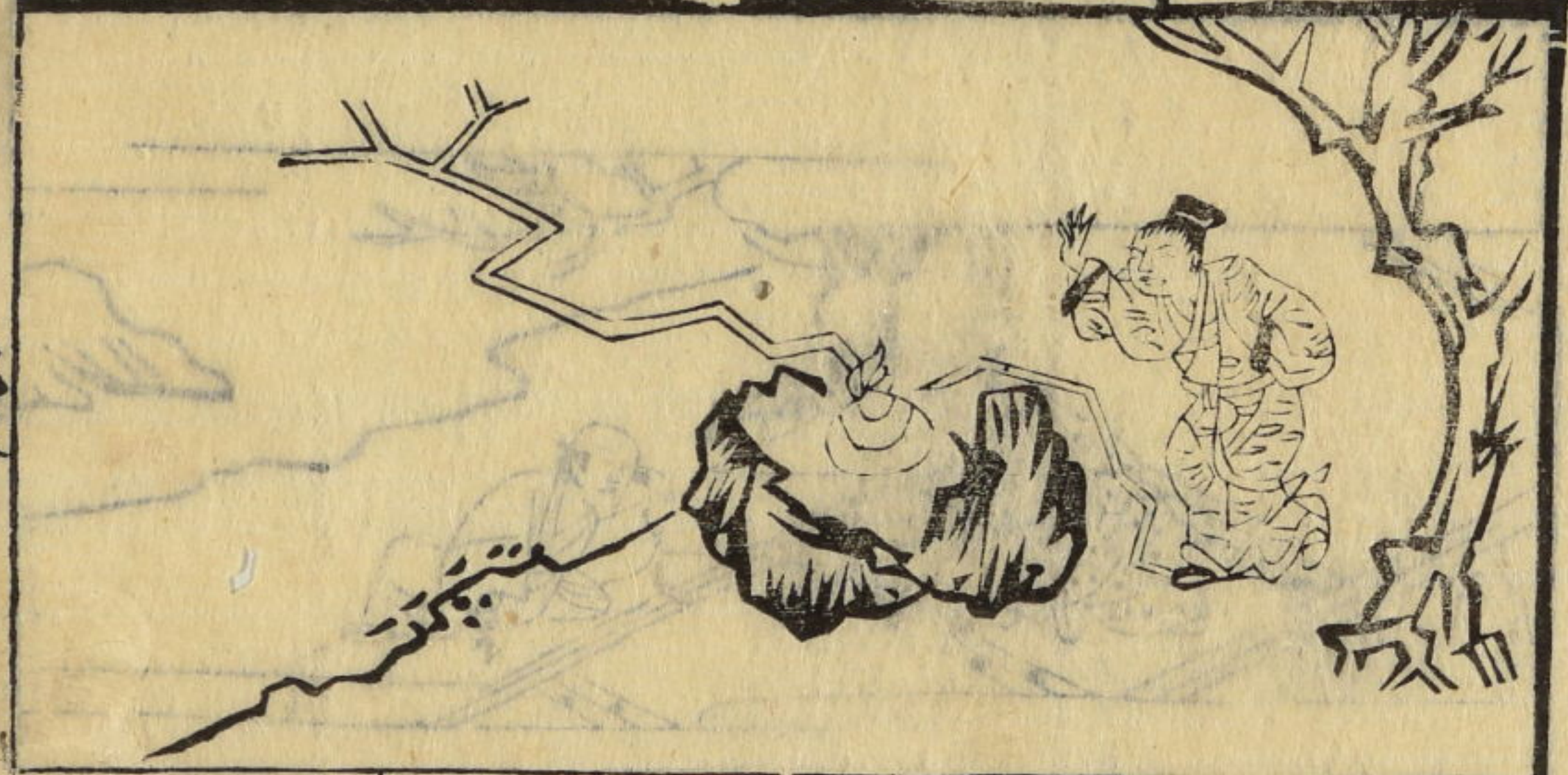
執文朝帝殿

びんごふ回あんも  
めゆやーやうそ

走馬听雷聲

あたいふまの  
みふらあやふ  
ていし

才八十七大吉



斲金石方逢玉

とハ石の中にあつ  
ぶもわりかころ  
べいさなり

淘沙始見金

いごいれ中にある  
こがひをゆるを  
あふささかり

青霄月終有路

たとひの紙そら  
よのりるともみ  
ちがあふさ

只恐不堅心

とこらうかころちと  
まゆしつとふか



丙 八十八才



作事不<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>同

あまたしきことを  
もとのひごと  
いぞ

臨危更<sub>レ</sub>主<sub>レ</sub>凶

すしあやういし  
もたふならぬ  
ぞ

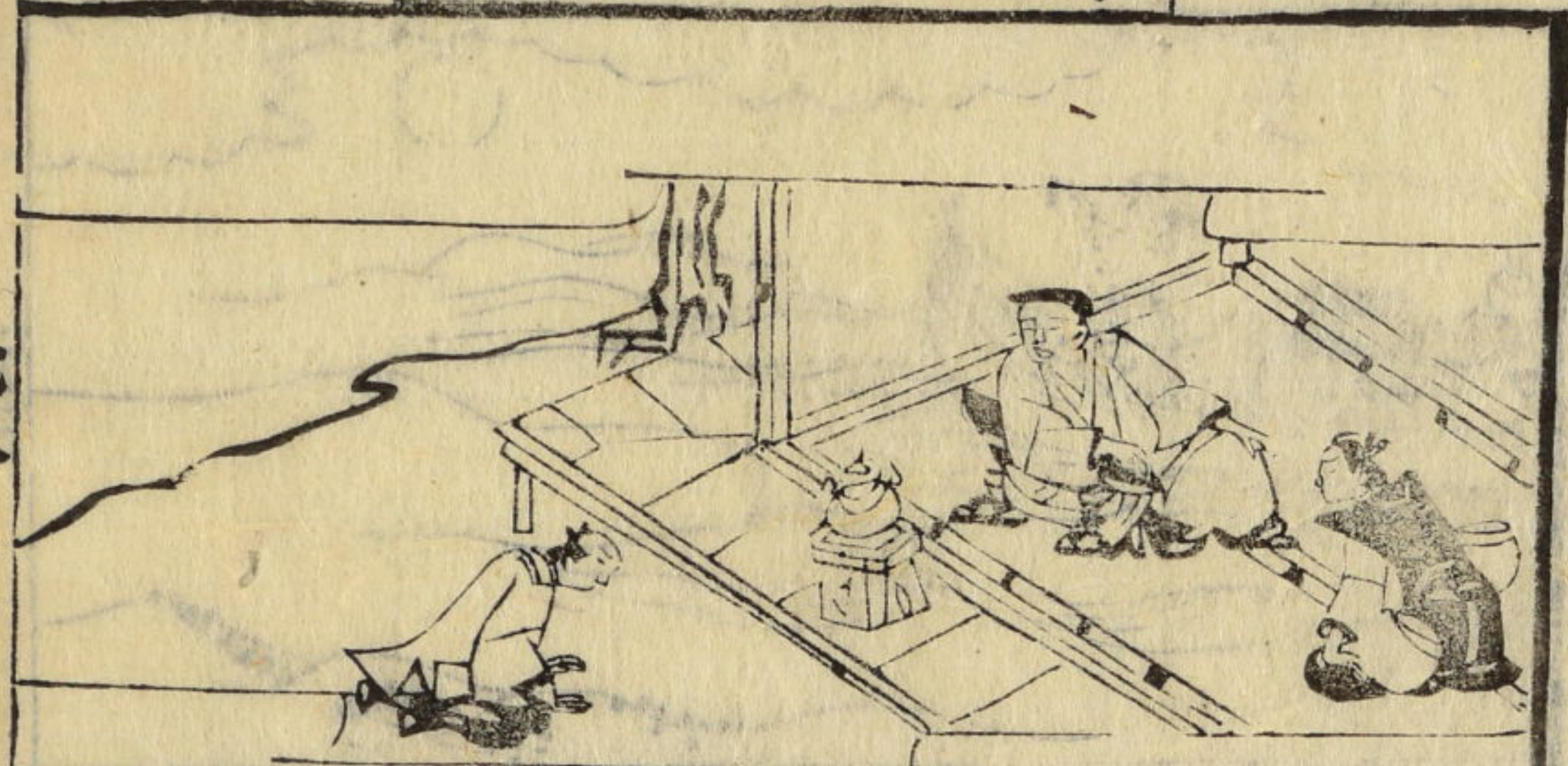
佳人生<sub>レ</sub>苦<sub>レ</sub>根

うけんもあをばふ  
まいあぐくし  
しどろりい  
さかり

閑慮兩<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>重

あしきしあ  
のあやうであ  
らぬぞ

吉 九十八才



一片無<sub>レ</sub>瑕<sub>レ</sub>玉

けたまにハ  
とますハあぞ

從今好<sub>レ</sub>琢<sub>レ</sub>磨

みづやといわが  
あぞすぞ

得<sub>レ</sub>遇<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>識

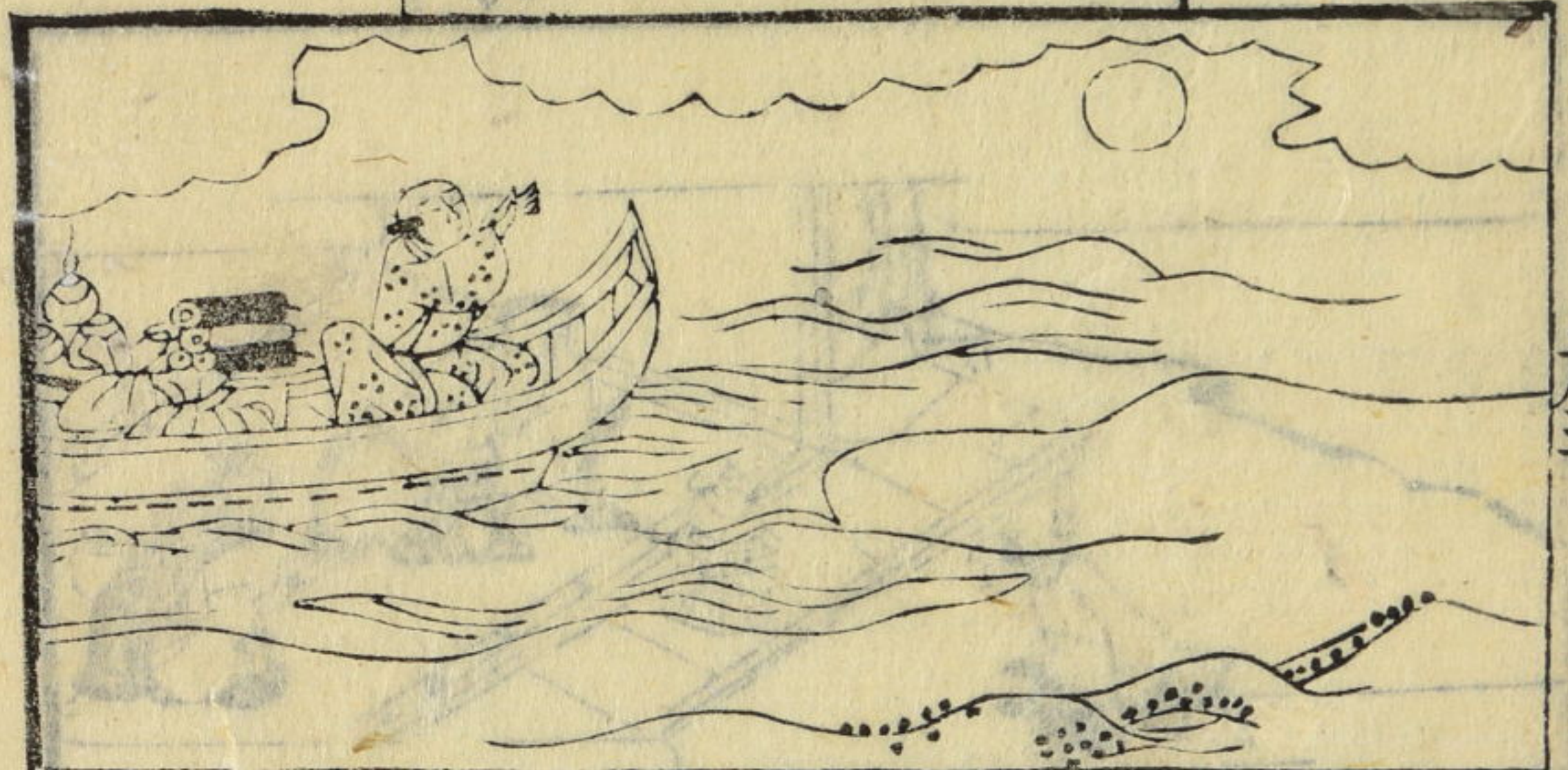
きん乃月ハ  
うもちあやう  
とあらあぞ

方逢<sub>レ</sub>喜<sub>レ</sub>氣<sub>レ</sub>多

よつてあはれ  
きりあぞ



吉十九才



一信向天飛

ひとむかへてあそび  
といのふり

秦川舟自歸

あつたあつたあ  
さともあそびにのせ  
てのふり

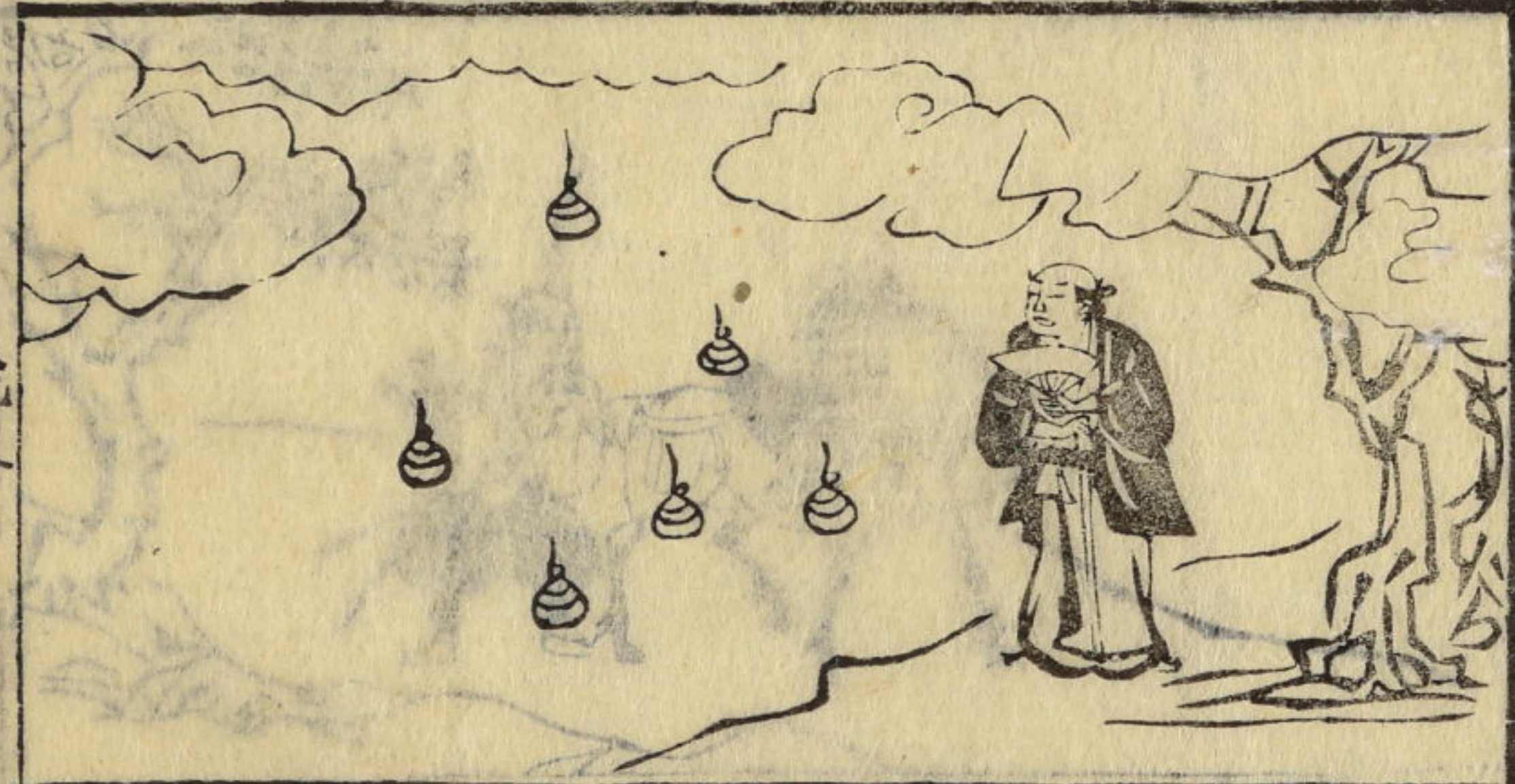
前途成好事

けいさつたあそび  
そのつりあそび  
はあつた

應得貴人推

まことあつたあそび  
けいさつたあそび

吉一十九才



改變前途去

けいさつたあそび  
のあつたあそび  
て

月桂人逢圓

あつたあそび  
うさつたあそび  
ま

雲中乘祿至

あつたあそび  
まのあつたあそび  
あつたあそび

凡事可宜先

あつたあそび  
あつたあそび  
あつたあそび



吉小二十九才



自幼常為旅

幼少はねにをりて旅

逢春駿馬驕

春に逢ふ駿馬は驕

前程宜進歩

前途は宜しき進歩

得箭降青霄

青霄に箭を降す

吉三十九才



有魚鰓旱池

旱池に魚鰓あり

踊躍入波濤

波濤に躍り入り

隔中須有望

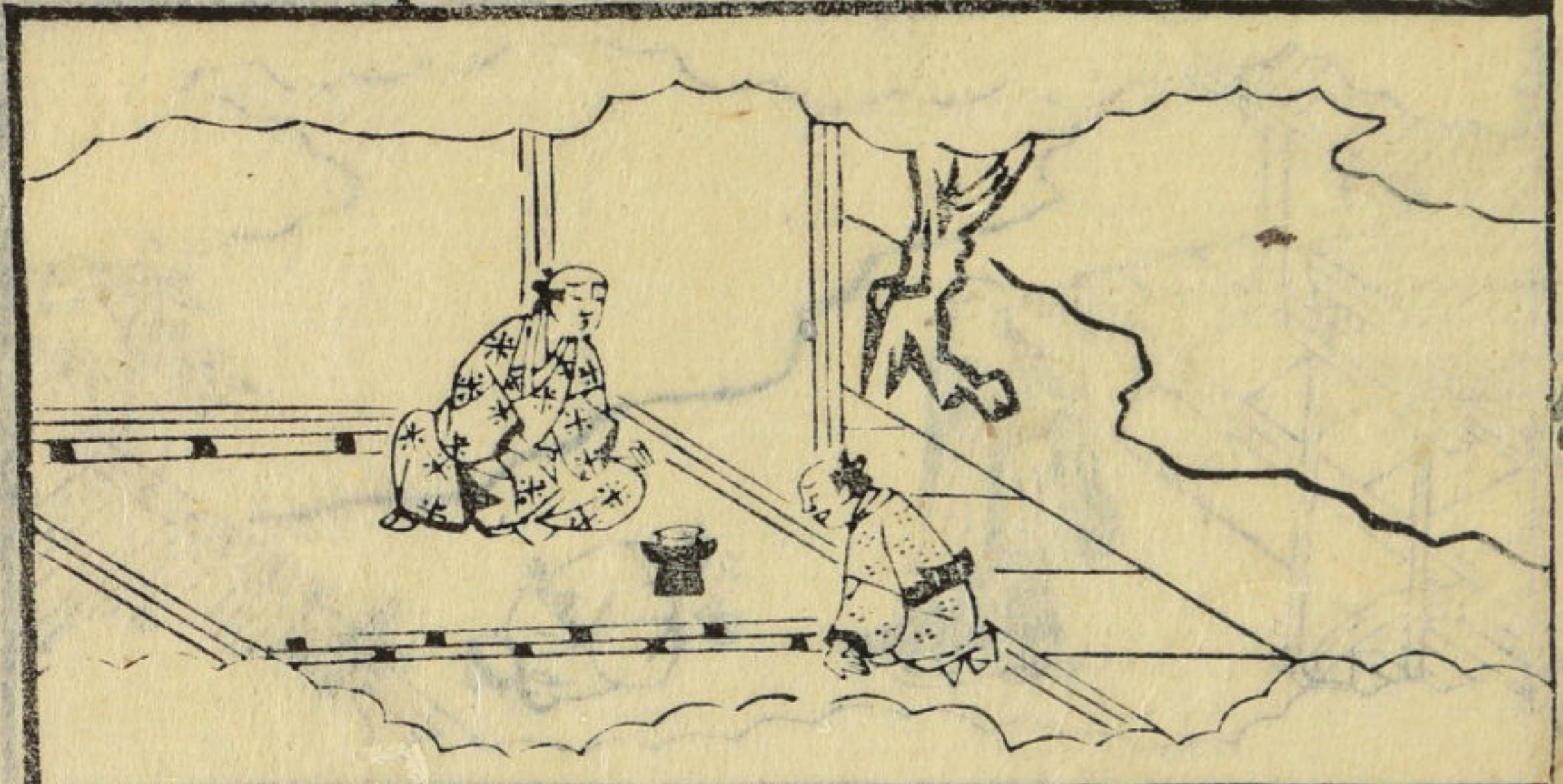
隔の中に望あり

先且慮塵勞

先づ塵勞を慮む



吉小四十九才



事忌樽前語

とけりるんお津  
しんあり

人防小輩交

下ろろんお津  
べし

幸乞陰公祐

あぢんよま  
ぶべし  
のぞんあつ

方免事敲

あつしん  
わんてん  
りん

吉五十九才



志氣勤修業

あぢん  
てん  
りん

禄位未造逢

あぢん  
てん  
りん

若見金雞語

あぢん  
てん  
りん

乘船得便風

あぢん  
てん  
りん



吉大六十九才



雞逐鳳同飛

あんどりてわすれぬと  
わけてさびたかた  
たゞぞ

高林整羽儀

ほそさそそめて  
たうとそやりにと  
やすわこぞ

棹舟須濟岸

よくあぬまのり  
よこらやうであら  
し

寶貨滿船歸

らんぐもあぢ  
とふねにらん  
ほんでらん

酉七十九才



雲窗早重樓屋

しやうとちんちん  
さうらうすこにうれ  
てあねぬぞ

佳人木上行

おしとちんちん  
ゆくとくかぞ

白雲歸去路

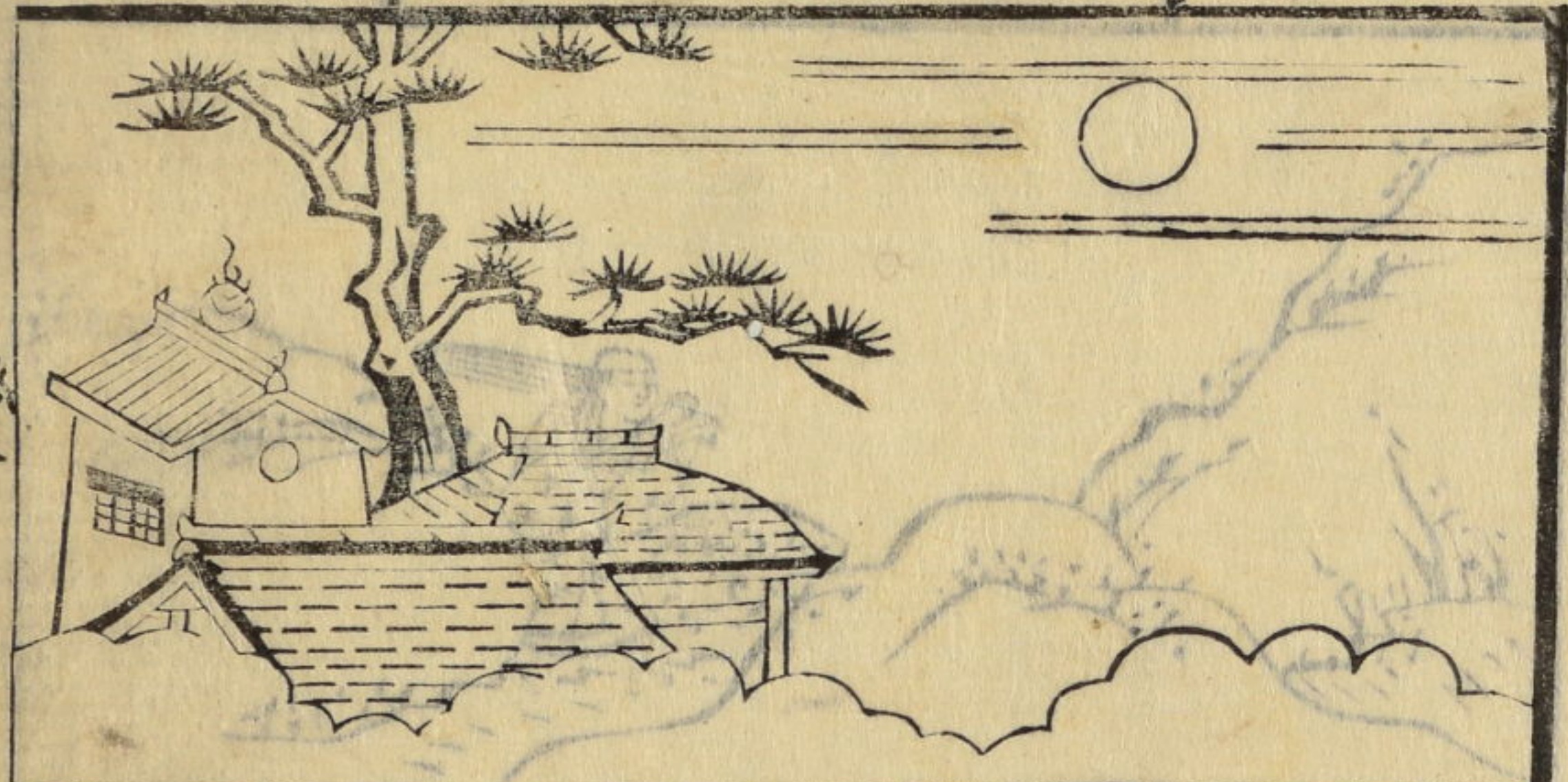
ゆくとくさうた  
あまがめりて

不見月波澄

月乃かんゆりか  
さかしくありけ  
しんべー



吉大九十九才



紅日當門照

天これと月が  
あつてまこと  
あつてまこと

暗月再重圓

あつてまこと  
あつてまこと  
あつてまこと

遇珊須得寶

あつてまこと  
あつてまこと  
あつてまこと

頗有補必遂

あつてまこと  
あつてまこと  
あつてまこと

凶八十九才



欲理新絲亂

あつてまこと  
あつてまこと  
あつてまこと

閑愁足是非

あつてまこと  
あつてまこと  
あつてまこと

只困羅網裡

あつてまこと  
あつてまこと  
あつてまこと

相見幾人悲

あつてまこと  
あつてまこと  
あつてまこと





禄走白雲間

とらふらふくもくくんのあきこ  
くもにうかされて  
あきかたり

携琴過遠山

とらふらふくもくくんのあきこ  
くもにうかされて  
あきかたり

不遇神山面

あんせんといせん  
のしんじんはなま  
わいじんご

空惹意欄珊

あきかたり  
あきかたり  
あきかたり

右此百籤者以濃州大慈山小  
松寺之正本校正焉

貞享元甲子八月下旬

村上勘兵衛雕刻



